



11/1 予選 SAT 2 決勝 SUN

SUGO '97 SUGO INTERNATIONAL ROAD RACE Rd.11 MFJ GRAND PRIX

TBC BIG ROAD RACE

GP500

MFJグランプリロードレース・TBCビッグロードレース

開催クラス

SUPER BIKE / GP125 / GP250 / GP500 (特別レース)



'97全日本ロードレース選手権シリーズ第11戦MFJ GP

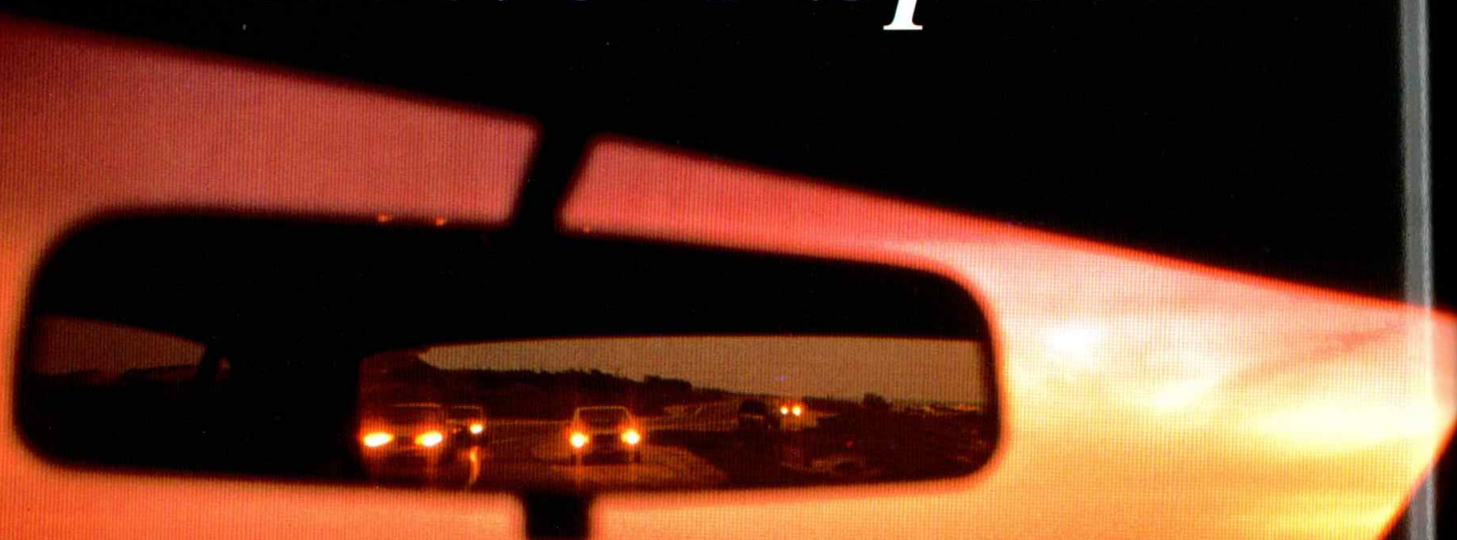
■主催 / (財) 日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ) ・スポーツランドSUGO
■公認 / 国際モーターサイクリスト連盟 (FIM) ・(財) 日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

TBCビッグロードレース

■主催 / スポーツランドSUGO
■共催 / 東北放送



Good Support for Driver's Spirit.



Nippon Shinpan
NICOS

SPORTS

In the true spirit of sportsmanship, Nippon Shinpan is honored to contribute to the challenging world of international competition. From world-class motorsports to J.League soccer, tennis, golf, triathlons, and more, Nippon Shinpan reaches beyond the limits to maintain that winning spirit. It's how real champions are made.

モータースポーツの感動、いつも伝えたい。



乗る人の夢、
いつもささえたい。
日本信販のオートローン。

日本人初の国際レースとして
世界に知られる生沢園 (IKUZAWA TETSU) 氏。

アグレッシブにクルマ計画

AUTO LOAN

オートローン

NIPPON SHINPAN
**AUTO LIFE
SYSTEM**

ご利用は、無理なく計画的に
日本信販株式会社
URL <http://www.nicos.co.jp/>

TZR250 SPR

SP伝説、極まる。
— 疾風、TZR。



- 3XV●Engine Type:Water-cooled,2-stroke,crankcase reed valve 90° V-twin
 - Displacement:249cm³●Max.Power:40ps/9,000rpm
 - Max Torque:3.6kgf·m/7,000rpm●Dry Weight:132kg
 - Coloring:Bluish White Cocktail 1
- ¥780,000

●走行写真は、プロフェッショナルライダーによるサーキット走行を撮影したものです。一般公道では無理な走行をせず、安全な運転をしましょう。●写真中のヘルメットは、撮影のため準備したものです。●メーカーオプションで速度警告灯装着仕様車(¥10,000高)もあります。●価格はメーカー希望小売価格です。(北海道・沖縄および一部地域を除く。)●価格は参考価格です。●価格には保険料、税金(含む消費税)、登録などに伴う諸費用は含まれていません。●消費税は別途計算のうえ申し受けます。●詳しくは販売店にお問い合わせください。



Φ41mm FRONT FORK

高剛性の41mm倒立フロントフォークを採用。また、前後とも減衰力調整機構を備え、好みのセッティングに対応。



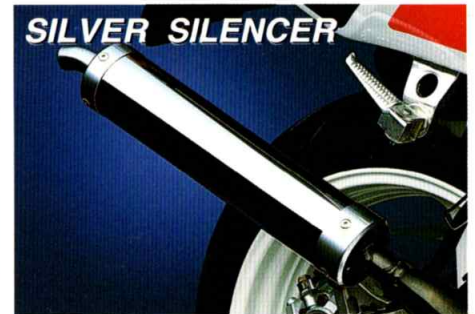
NEW CARBURETOR

半月タイプの新型スロットルバルブと異経ポアを採用し、スロットルレスポンスに優れ、アイドリングの安定性も向上したニューキャブレター。



TRIPLE YPVS

従来のフラットバルブYPVSに板状フラットバルブを採用し、さらに左右補助ポートにも制御バルブを設け、クイックレスポンスと豊かなトルクを高い次元で両立させている。



SILVER SILENCER

SPRの高い走行性能を象徴するブラックフレーム&リアアーム、ホワイトホイール、クロームメッキのシルパーチャンバーなど、ファイティングスピリットあふれるスタイリング。

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン



全日本ロードレース選手権
招待券プレゼント実施中
97年11月~12月にモーターサイクル
スクーターをお買上げの方に
【マルボログランプリ・ジャパン/8割/管生WSB】30%割引券付

●ヤマハモーターサイクルに関するお問い合わせは、下記のお客相談室へ。

お客相談室 ☎0120-090-819

●カタログご希望の方は、機種名・雑誌名と住所・氏名・年齢・職業を明記し、郵送料として郵便切手190円分を同封の上、下記へお申し込みください。
〒438静岡県磐田市新貝2500ヤマハ発動機株式会社 広報室宣伝グループカタログ係

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社

Come ride with us.  HONDA

刺激派 CB

水冷DOHCインライン4の心臓。

セクシー&ワイルドな体軀。

心に迫る感動性能

[PROJECT BIG-1]の指針が、魂を揺さぶり、興奮をまねく。

CB400スーパーフォアバージョンS。

フォルムばかりか、装備にまでも、さらなる誇りを身につけた。

躍動の存在、増強の走り。刺激派CB。

両輪で生きる。
(((生き活きホンダ)))


バイクのある素敵な生活をホンダから。



5.2%
ホンダスポーツバイク
ラクラククレジット
12/22(MON)まで
詳しくは、このマークのある販売店へ。



CB400 SUPER FOUR Version S

<イタリア・ブレボ社製>  **brembo**
異径4ポット対向ピストンキャリパー採用

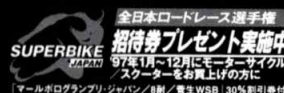
主要諸元 ● 型式NC31 ● 水冷4サイクルDOHC4バルブ4気筒・399cm³ ● 最高出力53PS/12,000rpm ● 最大トルク3.7kgm/10,000rpm ● 乾燥重量174kg ■ 車体色：グラニットブルーメタリック、キャンディミッドスマゼンタ、チタニウムメタリック、スパークリングシルバーマメタリック(新色)、キャンディタヒチアンブルー(新色) ■ メーカー希望小売価格 **¥599,000** (北海道、沖縄および一部地域を除く)
※価格には保険料・税金(消費税を含む)・登録などに伴う諸費用は含まれておりません。※価格は参考価格ですので、詳しくは販売店にお尋ねください。※速度警告灯装着車もタイプ設定してあります。(10,000円高)

■インターネット 二輪ホームページ <http://www.honda.co.jp/motor/>

バイクが好きだから、セーフティライド。



PRO'S
フロス店よりお届けします。

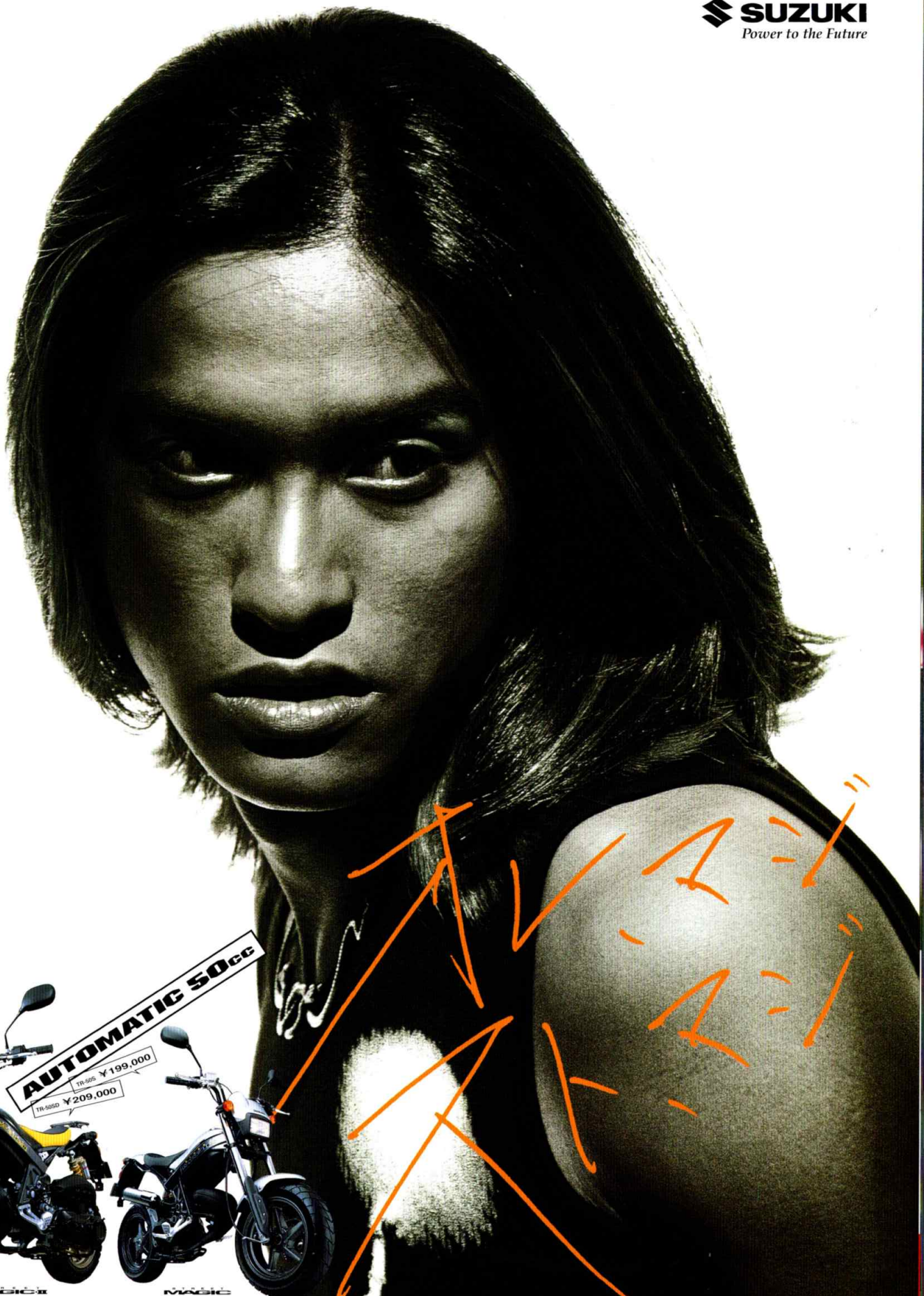


全日本ロードレース選手権
招待券プレゼント実施中
9/25(土)~10/31(日)にスーパーバイク
/スクーターをお買い上げの方に
[メール・ブログ・アプリ・ジャパン/8割/富士WSB] 30%割引券付

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

カタログご希望の方は、カタログ請求券と切手190円(送料)を同封し、機種名と住所・氏名・年令・職業を明記の上、〒150 東京都渋谷区郵便局留 本田技研工業(株)カタログ係まで。

カタログ請求券
CB400 SUPER FOUR
Version S
Rp



AUTOMATIC 50cc
TR-50S ¥199,000
TR-50SD ¥209,000

STREET MAGIC

●ストリートマジック TR-50 ●型式:A-CA1LA ●エンジン型式:A152 ●強制空冷・2サイクル・単気筒 ●最高出力:7.2ps/6,750rpm ●始動方式:セルフ式(キック式併設) ●乾燥重量:73kg ●ストリートマジック II TR-50SD ●型式:A-CA1LB ●エンジン型式:A153 ●強制空冷・2サイクル・単気筒 ●最高出力:7.2ps/6,750rpm ●始動方式:セルフ式(キック式併設) ●乾燥重量:78kg ●メーカー希望小売価格TR-50 ¥179,000 TR-50S ¥199,000 TR-50SD ¥209,000 (北海道・東北・沖縄及び一部地域を除く) ●価格には、保険料・税金(消費税を含む)・登録などに伴う諸費用は含まれておりません。消費税額は別途計算の上、申し受けます。●価格は全て、参考価格です。詳しくは販売店にお問い合わせ下さい。●車体色は印刷のため、実物とは異なる場合があります。●カタログご希望の方は、機種名・雑誌名・住所・氏名・年齢・職業を明記し、切手190円分(送料)を同封のうえ、右記までお申し込み下さい。〒432-91 浜松市高塚町300スズキ(株)二輪カタログ発送センター ストリートマジック係まで

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

読んで、正しく、安全運転。
●取扱いにもう一歩... ●知歩的な違反事故をなくしましょう。
わかりやすい「バイクと法令」監修 警察庁交通局長 原付用「学科試験模擬テスト集」
お求めは... 一番乗り!の二輪販売店。

全日本ロードレース選手権
招待券プレゼント実施中
97年1月-12月にモーターサイクル スクーターをお買い上げの方に
「マールホロクラウンブリッシュパン/8割/管生WSB」30%割引券付

もっと個性的に、もっとあなたらしく
Personal Best SUZUKI

Let the good times roll.
人と乗り物と、そして遊びのいい関係

ARK はカワサキの
信頼ある正規取扱店です。



Sports Session!

みんなでワイワイ、楽しさ全開ZEPHYR X。

ひとりで楽しむのもいいけれど、気の合った仲間と
同じ目的に向かって、がんばるのもいい——。
もうひとつの楽しみ、ZEPHYR X ツイン・ストライプ。

ツイン・ストライプでスポーツ感120%。

ZEPHYR X

ゼファーX ● 空冷4ストローク4気筒/DOHC16バルブ・399cm³
● 最高出力: 39.0kW(53PS)/11,000rpm ● 最大トルク: 35.3N·m(3.6kg·m)/9,500rpm ● 乾燥重量: 183kg
● カラー: パールロイヤルブルー、ルミナスピンテージレッド、メタリックダークブロンズ ● ¥580,000
※価格はメーカー希望小売価格(北海道・沖縄を除く)です。詳しくはARKにおたずねください。
※価格には保険料、税金(消費税など)、登録のための諸費用などは含まれていません。※オプションで速度警告灯装着仕様車(¥10,000高)もあります。



バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン



全日本ロードレース選手権
招待券プレゼント実施中
97年1月~12月にモーターサイクル
/スクーターをお買い上げの方に
「マールボロクラウンプリ・ジャパン/8割/ 富士WSB」30%割引券付

Kawasaki
株式会社 カワサキモーターズ ジャパン
インターネットでKawasaki情報がご覧いただけます。
<http://www.khi.co.jp/mcycycle>

Kawasakiに関するご意見、ご要望はお気軽に——お客様相談室…東京: ☎03(3595)0563 明石: ☎078(925)2003

カタログご希望の方は機種名と住所、氏名、生年月日、職業をご記入になり、送料190円分の切手を同封のうえ、〒673 明石市川崎町1-1 株式会社カワサキモーターズ ジャパン(カタログ係)まで。

カストロールの 高性能2サイクル レーシングオイルシリーズ



最新技術を投入したニューフェイスの登場により、
更にライダーの多種多様の要求に応える新ライン
アップとなりました。

NEW



A747

植物油と合成油の
混合油
SAE 50 番相当
2サイクル混合専用
エンジンオイル
(混合の目安
20~30 : 1)
※混合比の目安はガソリン :
オイルの順となっています。

レースオイルの定番



R30

植物油
SAE 30 番相当
2サイクル混合専用
エンジンオイル
/ ミッションオイル
(混合の目安
15~20 : 1)
※混合比の目安はガソリン :
オイルの順となっています。

カストロールの原点



Pure Racing
for 2-Stroke Motorcycles

100%化学合成油
SAE 60番以上相当
2サイクル混合専用
エンジンオイル
(混合の目安
20~30 : 1)
※混合比の目安はガソリン :
オイルの順となっています。

最新のレース専用オイル

より美しく、より快適に、より安全に走るために——。アライの技術の粋を集めてフルモデルチェンジした《アストロ-I》。



低速走行でも頭頂部まで確実に風を誘導する新フローベンチレーションシステム。



ワンタッチ微開でシールドの曇りを除去する新設計デミストロック。



プラスチックの自分らしさ。



アストロ-Iの風の巻き込みを防ぐエアロフラップ。(ビルトインタイプ)



脱着自在なノーズディフレクター。レーシングディフレクターの装着も可能。(顔の形に合わせて形状調節可能なレーシングディフレクター ¥1,200)



取り外して洗濯機で洗える丸洗い内装設計。



活性炭フィルターを採用したマウスフィルター。(取り外しメンテナンス可能)

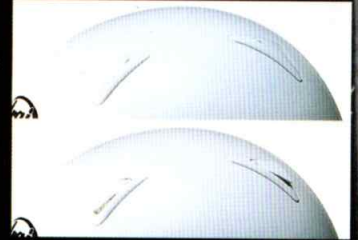
ライディングポジションに合わせて調節できる、マウスシャッター。



フルシステム内装

安全性能や軽さだけでなく、ライダーとしての風格と先進の装備の充実をテーマにした《アストロ-I》。アストロ-Iのフォームを崩さないフラッシュフェイスダクト(FFダクト)は、前方のエア・インテークから走行風を大量にヘルメット内に導き、負圧により後方から一気に排気する画期的なベンチレーションシステムである。ベンチレーション孔も従来の7.5mmから10mmに拡張し、FFダクトとの相乗効果により、低速走行でも確実にクールダウンが体感できる。これは、帽体天井部の強度をこれまで以上にアップさせたFF専用帽体をアライが開発したため可能となった。また、フローベンチレーションはアライがSZ-βから採用している薄型高能率シャッターに加え、新設計のインナーブローにより大きな能率向上を果たした。次に、ハイフィッティング内装によるフィット感の向上。サイドパッド、天井パッドが一体のフルシステム内装は、新素材を採用し内装フレームを撤去。頭全体をソフトに包み込み、かぶり疲れのない心地よいフィッティングを実現した。そして、活性炭入りマウスフィルターの採用。新型マウスシャッターから取り入れた外気は2方向に分かれ、一方はセンターパッド内蔵の活性炭入りフィルターで濾過されて口元に送られ、もう一方はシールド内面の曇りをおさえる。その他、風の巻き込みと冬場の防寒に威力を発揮するエアロフラップ。曇りを除去するニューデミストロックシステムなど。すべての先進機能は、ライダーたちのメンタルな要求に対して、アライからの「自分らしさ」の贈り物といえる。《アストロ-I》は、磨きのかかった、大人のためのフルフェイスなのだ。

リトラクタブルタイプFFダクト



●機種名:ASTRO-I(アイ) ●帽体:cLc(コンプレックス・ラミネート・コンストラクション) ●規格:スネル1995、JIS C種 ●内装:フルシステム内装 ●シールド:スーパーアドシス標準装備(特許出願中) ●色:白、黒、ブライトシルバー、Vメタリック、イタリアンレッド、キャンディレッド ●サイズ:(53-54)、(55-56)、(57-58)、(59-60)、(61-62)

¥36,500

※価格に消費税は含まれていません。●アライ製品については、品質管理課までお問い合わせください。直通TEL(048)645-3661 株式会社 アライヘルメット 〒330 埼玉県大宮市東町2-12 TEL(048)641-3825~7

Arai アライヘルメットは 変わります。

EVOLUTION FROM THE WGP

モーターサイクルレースの最高峰、WGP。
その中でも、クラスにおいて3年連続のチャンピオンを
獲得したM・ヒアツジ&ダンロップ。
それがダンロップのレーシングテクノロジーのすべてを物語る。
熾烈な闘いのフィールドで鍛えられたノウハウは

そのままハイパフォーマンス・ラジアル
Rideenへと直結する。

数々のプロダクショントレースで
勝利を重ねてきた
GPR-50SP。

その、戦闘力の高さは
伝説とさえなった。
そしていま、

ポテンシャルをさらに磨いて
GPR-70、誕生。

スタートから飛び出し、ライバルを一気に
引き離す強烈なトラクション、
ライダーの意思に即応するリニアなコントロール性、
ラストラップまで維持するグリップ特性…。

WGP直系のチャンピオン・スベックを余すところなく受け継ぎながら
さらなる勝利をめざして進化する。

NEW

GRAMP SPEC

Rideen GPR-70 誕生!

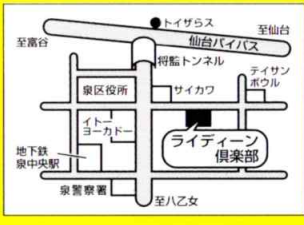
ライディーン倶楽部は、モータースポーツを応援しています!

MOTORCYCLE TYRE PROSHOP
Rideen Club



東北自動車道泉インターからバイクで5分!

バイクタイヤプロショップ
ライディーン倶楽部
仙台市泉区中央3丁目13-4
☎ 022-218-6281
《営業時間》AM10:00~PM7:00
《定休日》毎週火曜日
店長：佐々木 メカニック：小野寺



- 東北地方では唯一のバイクタイヤ専門店!
- ミニバイク用タイヤからレーシングスリックまで常時500本以上の在庫量
- ダイナミックバルancer完備
- バイク用品、パーツ、オイルなども各種在庫
- バイクのことなら何でもお気軽にご相談下さい

セル一発で気持ちよく
始動する。

発進加速で気持ちよく
ダッシュする。

**そんなプラグ、
あります。**



NGK VX プラグ

極めて細いプラチナの中心電極と、鋭く尖った側方電極により、さらに着火性能を向上させた、高性能プラグ。始動性や加速性、パワー等エンジン性能をフルに引き出します。



日本特殊陶業

BREAK UCC

ブレイク・ギアが合計15,000名様に当たる!
UCC BREAKキャンペーン実施中!

期間
'97年9月1日(月)
~11月29日(土)

A コース	東芝ジェニオ 50枚/60名様	B コース	ソニー グラストロン 50枚/60名様	C コース	BREAK スノーボードセット 40枚/90名様
					
D コース	ソニー キューブリック 30枚/150名様	E コース	カシオ QV-11 (デジタルカメラ) 20枚/180名様	F コース	ゼロハリバートン アタッシュケース 20枚/180名様
					
G コース	パナソニック SHOCK WAVE 10枚/300名様	H コース	BREAK ジャケット 5枚/4,980名様	Wチャンス賞	
				オリジナル テレフォンカード 9,000名様 (A~Hに 当選されなかった方 の中から抽選)	

■応募方法: 対象製品についている応募シールを、ご希望のコースの規定枚数分を1口として、応募ハガキまたは官製ハガキにしっかりと貼り、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号およびご希望のコースと景品名をひとつだけ明記し、ご郵送ください。■宛先: 〒100-91 東京中央郵便局私書箱966号「UCC BREAKキャンペーン」係 ■締切: 第1回/9月30日(火)の当日到着分有効 第2回/10月31日(金)の当日到着分有効 第3回/11月29日(土)の当日消印有効 A~Hコースは各締切ごとに当選者数を均等に配分して抽選、Wチャンス賞は各回の抽選にもれたハガキすべてをまとめて、キャンペーン期間終了後に抽選いたします。■キャンペーン案内: UCCダイヤル 東京 03-3829-3300 神戸 078-361-3300 ■対象製品: ●UCCスーパー2 ●UCCブラック無糖 ●UCCスーパーオリジナル ●UCC缶コーヒーオリジナル ※おひとり様何通でもご応募いただけますが、ハガキ1通につき、1コース1口のみのご応募とさせていただきます。※景品のデザイン・仕様等は、写真と多少異なる場合があります。※Aコース「東芝ジェニオ」のPHS機能をご利用になりたい場合は、契約事務手数料及び基本料金・通話料はお客様負担となります。※当選者の発表は景品の発送をもってかえさせていただきます。※UCC社員および関係者は応募できません。



応募シール



インターネット
「Ucc Café Café」も
ご覧ください。
(<http://www.ucc.co.jp>)

あきかんはリサイクル

UCC上島珈琲株式会社

着心地のいい街造り。



街造りは、人が住み暮らす空間の創造。豊かな文化の育まれるコミュニケーションあふれる街、そして、より安全で住みやすい街造りは、私たちの共通の希求です。トビシマは、暮らしに密接した住宅建設を始め、道路や鉄道、上下水道施設など、暮らしを守る都市基盤のハードウェア造りを通じて、「着心地のいい街」のための小さな一翼を担っています。今日も幅広い技術を背景に、効率性や機能性をさらに一歩進めた、やさしいヒューマンウェアの領域を目指し、確かな建設をおこなっています。



ジュビロ磐田スタジアム

**飛島建設**

本社：東京都千代田区三番町2番地 千102 TEL 03(6266)3111

ベストライダーの皆さまへ

ベストライダーに欠かせない

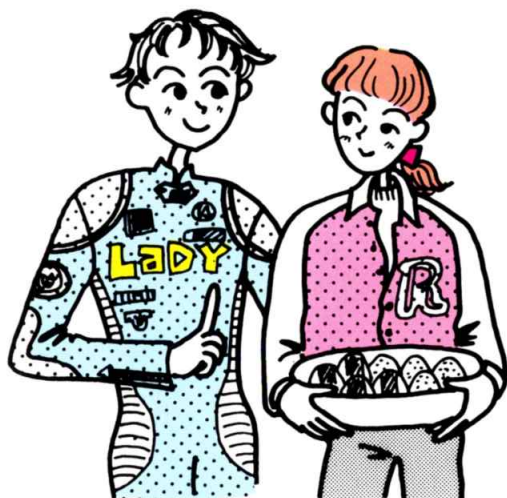
バイクの《自賠責保険》

★法律によって加入が義務づけられている保険です。

大きな安心、
おとどけしめます

自賠責保険をつ
けずにバイクを
運転すると

- ◎6ヶ月以下の懲役または5万円以下の罰金
- ◎6点の減点
- ◎30日の免許停止処分



バイクの自賠責保険料

(平成9年5月1日改定)

	原付自転車 (125cc以下の2輪)	軽二輪自動車 (125cc超 250cc以下)
3年	11,250円	27,000円
2年	9,500円	20,300円
1年	7,700円	13,250円

損害保険代理店

ホンダ開発株式会社

本社 〒107 東京都港区南青山2丁目1番1号(ホンダ青山ビル) ☎03-3423-2312

事業部

- | | | |
|---------------|---------------------|---------------|
| 和光事業部 〒351-01 | 埼玉県和光市本町9番1号 | ☎048-461-0843 |
| 狭山事業部 〒350-13 | 埼玉県狭山市新狭山3丁目9番2号 | ☎0429-53-7351 |
| 浜松事業部 〒433 | 静岡県浜松市葵東1丁目13番2号 | ☎053-436-2241 |
| 鈴鹿事業部 〒513 | 三重県鈴鹿市大池3丁目13番20号 | ☎0593-79-5407 |
| 熊本事業部 〒869-12 | 熊本県菊池郡大津町大字平川1500番地 | ☎096-293-6222 |
| 栃木事業部 〒321-33 | 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台56番2 | ☎028-677-3108 |



セッティングの決め手。

無鉛ハイオク仕様 2サイクルレーシングオイル [RV-R] を武器に
ワンツーフィニッシュ!!



右優勝/菊池選手
左2位/井手選手

日本小型自動車振興会

レース公



RV-R

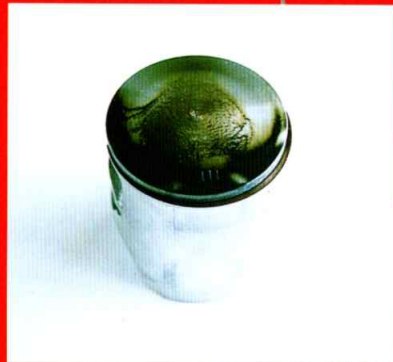
化学合成油+変性植物油
混合専用2サイクルエンジンオイル
1ℓ/3,800円

有鉛ガソリンから無鉛ガソリンへ、

WAKOS ではすでに2年前から無鉛ハイオク仕様専用オイルの開発を進め、実走テストを重ねた結果「RV-R」は完成した。「RV-R」はエンジンセッティングを明瞭化させるため、無鉛ハイオク仕様のレーシングエンジンの燃焼状態に合わせてカーボン発生を意図的にコントロール、セッティングの決め手となっている“焼け”が明確にでき、それを基にベストセッティングが可能となっている。

無鉛ハイオク仕様専用オイル WAKOS 「RV-R」のセッティング能力の高さは、その“焼け”を判断基準にしたRT TUBEライダーズ 菊池選手とチーム・ウィリー 井手選手がセッティングに最もシビアな“大接戦”のGP125クラス、全日本RR第9戦筑波大会にてワンツーフィニッシュを飾ったことや、GP250クラスのトッププライベーターコンパイルレーシングヤマハの松戸選手の活躍等が実証している。

WAKOS のオイルは進化し続ける、闘う者たちと共に……



ホンダRS
IN側が帯状に黒いカーボンが着き、
センターに向かってそれよりも若干茶色の
カーボンが広がります。



ヤマハTZ
外周が黒くなり、センターが
赤茶色に焼けてきます



菊池寛幸選手



稲毛田潤選手



大崎誠之選手



松戸直樹選手



加藤健治選手

●お求めはお近くの **WAKOS** ステッカーのお店で。

(株)和光ケミカル

神奈川県小田原市前川16-2 TEL.0465-48-2211代

オートバイはどカンナイ乗り物はない。

ライダーが知りたい
情報フルバック!
MM4大ニ輪雑誌!!

ライダーズスピリットを結集!!

オートバイ

毎月1日発売! 定価570円

We're Windy People!

Mr. Bike エブ・バイク

毎月6日発売! 定価300円

FIRST MAGAZINE FOR FRESH RIDER

Mr. Bike エブ・バイク **BG**

毎月14日発売!! 定価330円

Magazine for Bike People

GOGGLE

毎月24日発売! 定価500円

モーターマガジン社

〒105 東京都港区新橋5丁目33番10号
電話 03 (3434)3151番 (代表)

ブルーインパルスJrが



SUGOにやってきました!



今春、全日本ロードレース選手権第2戦でモータースポーツ界に初登場を果たし、大きな話題を集めた「ブルーインパルスJr」が、スポーツランドSUGOに再び登場します。

同チームは、航空自衛隊松島基地所属のアクロバットチーム「ブルーインパルス」の整備隊員で構成されたもので、通常、その華麗な演技は、松島基地以外ではほとんど見ることはできません。

しかし、航空自衛隊松島基地の多大なご理解・ご協力のもと、今回も特別にメニューを組み、その華麗な技を披露してくれることになりました。精悍なユニフォーム姿、ブルーインパルスと同じカラーリングのマシン、そして華麗な演技。レース顔負けの迫力と感動が味わえること間違いなしです。

今、巷では「ブルーインパルスJr」ファンが急増中。さらに、当日は「ブルーインパルス」や「ブルーインパルスJr」関連のグッズやステッカーも展示されます。是非この機会をお見逃しなく!!

'97

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

Highlight



全日本選手権ロードレースもいよいよ今回が最終ラウンド
全11戦で争われる今シーズンのチャンピオン争いは
第9戦筑波で芳賀紀行がスーパーバイククラスの
続く第10戦TIで加藤大治郎がGP 250クラスの
タイトルをそれぞれ決めている
二人共に初めての全日本チャンピオンの獲得だ
一方、GP 125クラスのみが、タイトル争いが
この最終戦までもつれこんでいる
GP 125クラスのポイントリーダーは秋田貴志
菊池寛幸が10ポイント差で、小澤敏明が17ポイント差で追っている
このSUGOの最終戦で、どんな戦いが展開されるのか？

'97 Highlight

ALL JAPAN ROADRACE CHAMPIONSHIP



INT-SB SUPER BIKE

95、96年と全日本スーパーバイククラス2連覇の青木拓磨が、今シーズン世界GPへと参戦
このため今年はゼッケン1不在のシーズンとなった
拓磨独走の展開だった昨シーズンとうって変わり
今年は4メーカーのワークスライダーがしのぎを削る
激戦のレースがここまで展開されてきた
その中でも一歩抜け出していたのがヤマハの芳賀紀行
ここまで7勝をマークし、早々とタイトルを獲得
ホンダの武田雄一が2勝、伊藤真一が1勝
スズキの藤原克昭が1勝と続いている
10月のWSB-SUGO大会でも優勝して波に乗る
芳賀紀行を止めるのはだれだ？



'97 Highlight

ALL JAPAN ROADRACE CHAMPIONSHIP



昨年までこのクラスを2連覇したベテランライダー沼田憲保の世界グランプリ参戦により今シーズンは若手を中心とした各ワークスライダーのバトルがここまで展開されてきたシーズン開幕直前の交通事故で開幕戦を欠場した加藤だったが復帰レースとなった第2戦で優勝その後、計7勝を上げて最終戦を待たずにタイトルを獲得勝ち星だけ見れば、加藤の独走だが加賀山就臣、芳賀健輔、中野真矢らスズキ、ヤマハのワークスライダーが加藤と激しい接戦を展開したそして、もう一つの焦点はプライベートの戦いぶり市販レーサーでワークスに挑む松戸直樹、玉田誠の二人が今シーズンは表彰台に上っているさて、最終戦を制するのは？



INT-1 GP250



'97 ALL JAPAN ROADRACE CHAMPIONSHIP Highlight



チャンピオン争いが最終戦までもつれこんだ
今シーズンのGP125クラス
この事実は、これまでの戦いが混戦だったことを
如実に物語っている
ランキング1位の秋田とランキング2位の菊池
二人のポイント差は最終戦を前に10ポイント
そして、3位の小澤までタイトル挑戦権がある
初めてチャンピオン争いに加わってきた秋田
後半戦に入って調子を上げてきたベテランの菊池
そして、今年SUGOで1勝を挙げている小澤
タイトル争いの攻防から目が離せない
そして、注目のライダーがもう一人
今回のレースには、昨年の全日本チャンピオンで
今年からGPに挑戦した東雅雄がエントリー
1年間のグランプリの成果を披露する…



SUGO '97 SUGO INTERNATIONAL ROAD RACE Rd.11
MFJ GRAND PRIX
TBC BIG ROAD RACE

CONTENTS

'97 全日本ロードレースハイライトシーン	15
大会公示・挨拶	20
タイムテーブル・オフィシャル	22
スーパーバイク	24
GP250	28
GP125	32
GP500	36
各クラスエントリーリスト	40
MFJ グランプリヒストリー	50
サーキットガイド	52

SPONSORS

五十音順・敬称略

RFC 事務局	47	日本信販株式会社	表2
株式会社アライヘルメット	6	日本特殊陶業株式会社	8
カストロール株式会社	5	ブラウン・アンド・ウィリアムソン・タバコ・コーポレーション	表4
株式会社カロツェリアジャパン	58	株式会社ブリヂストン	60
株式会社カワサキモーターズジャパン	4	ベトルルブインターナショナル株式会社	55
蔵王ロイヤルホテル	54	ホンダ開発株式会社	11
昭栄化工株式会社	59	本田技研工業株式会社	2
スズキ株式会社	3	ミシュラン・オカモトタイヤ株式会社	56
住友ゴム工業株式会社	7	株式会社モーターマガジン社	13
東北放送株式会社	表3	ヤマハ発動機株式会社	1・48
飛鳥建設株式会社	10	UCC 上島珈琲株式会社	9
株式会社永谷園	57	株式会社和光ケミカル	12

協力：航空自衛隊松島基地「ブルーインパルス Jr」
 スタッフハウス

SUGO 197 SUGO INTERNATIONAL ROAD RACE Rd.11
MFJ GRAND PRIX
TBC BIG ROAD RACE

公示

本大会は、FIM [国際モーターサイクリスト連盟] の公認のもとに国際スポーツ憲章、(財)日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ) の国内競技規則及び本大会特別規則に基づき開催される。

OFFICIAL NOTICE

This meeting will be held in accordance with the FIM sporting Code, MFJ National Sporting rules and Supplementary regulations.

開催競技会

■大会名称:

'97全日本ロードレース選手権シリーズ第11戦 MFJ GP

■主催:

(財)日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)
 スポーツランドSUGO

■公認:

国際モーターサイクリスト連盟 (FIM)
 (財)日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

■後援:

文部省 宮城県、村田町

■大会名称:

TBC BIG ROAD RACE (TBCビッグロードレース)

■主催:

SUGOスポーツクラブ

■共催:

東北放送

ご来場の皆様へ

ロードレース競技には危険が伴います。本大会の競技・運営において、事故のため観客が損害・死傷を受けた場合、本大会の主催者、運営役員、競技参加者は、これに対する補償責任は一切ありません。この点をご了承の上でご入場いただき、決められた場所で観戦くださるようお願い申し上げます。

'97全日本ロードレース選手権シリーズ第11戦
第34回MFJグランプリロードレース大会

OFFICIAL SOUVENIR PROGRAM

企画/発行 スポーツランドSUGO
 宮城県柴田郡村田町菅生6-1 TEL 0224-83-3111
 制作/印刷 針生印刷株式会社
 宮城県仙台市若林区六丁の目黒町1-38 TEL 022-288-5011
 オフィスとらくしよん
 東京都文京区大塚3-5-4-801 TEL 03-5395-6148

©無断転載禁ず

ご挨拶



大会名誉総裁
 Honorary Chairman
 村田町町長

桜中 良寿
 RYOJU SAKURANAKA

我が郷土・村田町が誇りますスポーツランドSUGOサーキットにおきまして、全日本ロードレース選手権第11戦「第34回MFJグランプリロードレースin SUGO」が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

緑豊かな我が郷土に、世界最高水準のオートバイと、選手・チームの皆様、さらには熱心なファンの皆様が一同に結集され、かくも盛大なレースが繰り広げられます事は、私ども村田町民にとりまして、この上ない喜びであると同時に、誇りでもございます。

毎年、回を重ねる度に感動的なシーンや様々なドラマが生まれ、新たな交流の輪が広がってきました。本大会は、今年度の選手権の最終戦となりますが、今回もすばらしいレースが繰り広げられ、この村田町に新たな歴史が刻まれますれば、これに優る喜びはございません。これも、選手・チームの皆様や関係の皆様、関係各社様、そしてファンの皆様のご支援・ご協力あればこそでございます。

末筆になりましたが、本大会の開催に向けまして、ご後援・ご協力いただきました関係各位様、ご尽力たまわりました各社様、選手・チーム関係者様、そしてファンの皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。



大会名誉会長
Honorary President

(財)日本モーターサイクルスポーツ協会会長

石塚 秀男
HIDEO ISHIZUKA

「第34回MFJグランプリロードレース」が、スポーツランドSUGOにおきまして、多くのモーターサイクルスポーツファンの皆様、関係者の皆様をお迎えし、開催できますことを、当協会を代表致しまして、心より御礼申し上げます。

財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会は、スポーツ団体としてモーターサイクルスポーツのさらなる普及と発展を目標に活動しておりますが、自らの社会的使命を強く認識し、青少年の健全な発展と心身の鍛練のために、今後一層の努力をしていく所存であります。

本大会に出場する選手やチームは、いずれも世界のトップクラスの歴戦の兵ばかりでございます。ご来場いただきましたお客様の皆様には、選手・チーム諸氏に惜しみのないご声援をお送りいただければ幸いです。また、選手諸君におかれましては、あたたかい声援を励みに、持てる力を残すところなく発揮され、シリーズの最高峰にふさわしいレースを展開されます事を期待致します。

末尾ながら、大会関係者様、選手・チーム関係者様、協賛各社様・来場されたお客様、皆様のご清栄をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



大会名誉会長
Honorary President

東北放送株式会社代表取締役社長

一カ 一夫
KAZUO ICHIRIKI

ファン待望の'97TBC杯ビッグロードレースがいよいよ開幕。

今回も大勢の皆様にご来場いただきありがとうございます。

TBC杯ビッグロードレースは、昭和52年以来、内外の多くの選手が参加し熱い闘いを繰り広げてきましたが、国内で500ccのレースが開催されるのは、春の世界選手権日本GPと、秋のTBC杯ビッグロードレースだけです。

それだけに、このTBC杯ビッグロードレースは、モーターサイクルファンにとっては見逃せないレースです。

SUGOのコースは1周3,700メートル。カーブの多いこのコースは、テクニックの優劣が順位に結びつきやすく、エキサイティングなレースが展開されます。

今年も、WGPで圧倒的な強さを見せV4を達成したオーストラリアのマイケル・ドゥーハンをはじめ、去年ドゥーハンを抑えて優勝、今年も世界ランキング3位以内が確実視されている岡田忠之、それに注目の青木拓磨らが出場します。

参加選手には、日頃鍛えた技を十分に発揮されることを期待します。そしてご観戦の皆様には、選手たちへの力強い声援をお願いいたしますとともに、人間とマシンが一体となって繰り広げる闘いを堪能していただきたいと存じます。

最後になりましたが、今回の大会の開催にあたり多大なご尽力、ご協力を賜ったスポーツランドSUGOをはじめ関係の皆様にご心より感謝申し上げます。11月2日(日)の決勝レースの様子は、当日深夜0時25分から1時20分まで、東北放送テレビをキーステーションに全国9局ネットで放映されますので、映像を通して気分も新たに再度ご観戦いただきたいと存じます。



大会会長
President

スポーツランドSUGO代表取締役社長

松本 忠
TADASHI MATSUMOTO

本日は「MFJグランプリロードレース in SUGO」にご来場いただき、ありがとうございました。このような盛況の中に大会を開催できます事を、各関係者に成り代わりまして、ご参集いただきましたファンの皆様にご感謝申し上げます。

早いもので、MFJグランプリロードレースが開催されるようになってから、今大会で34戦目を数えるようになりました。

今年も、ここSUGOに戦いの舞台が巡ってくるまで、幾多の熱戦とドラマが繰り広げられてきました。シリーズ最終戦である今大会は、一層の熱戦と感動的なドラマが繰り広げられるものと確信致しております。

競技開始に先立ち、参加選手・チーム関係者の皆様には、競技規則を遵守されながら、その技術・技量をいかに発揮されますことを希望致します。ファンの皆様におかれましては、参加選手・チーム関係者へのあたたかいご声援をお送りいただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本大会開催に際しまして、ご後援・ご協力をいただきました関係各位様、関係各社様に心から感謝申し上げますとともに、今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

TIME TABLE タイムテーブル

		7:00	8:00	9:00	10:00
11月1日(土)	公式車検	6:30ゲートオープン		全クラス	
	タイヤマーキング (コースインゲート)		40	10 30 40	10 30 40
	公式予選		GP125 C(1) 20	GP125 B(1) 50	GP125 A(1) 20
	ライダーズブリーフィング (ウィナーズサロン2F)			SUPERBIKE B(1) 50	SUPERBIKE A(1) 20

		7:00	8:00	9:00	10:00
11月2日(日)	ウォームアップ走行	6:30ゲートオープン			
	スタート前チェック		10 20 30 40 50	10 20	
	スタート進行		GP 125 S-B GP 250	GP 500	
	決勝レース			20 35	
	仮表彰			50	
					GP125 (18L) 25

大会組織 EXECUTIVES

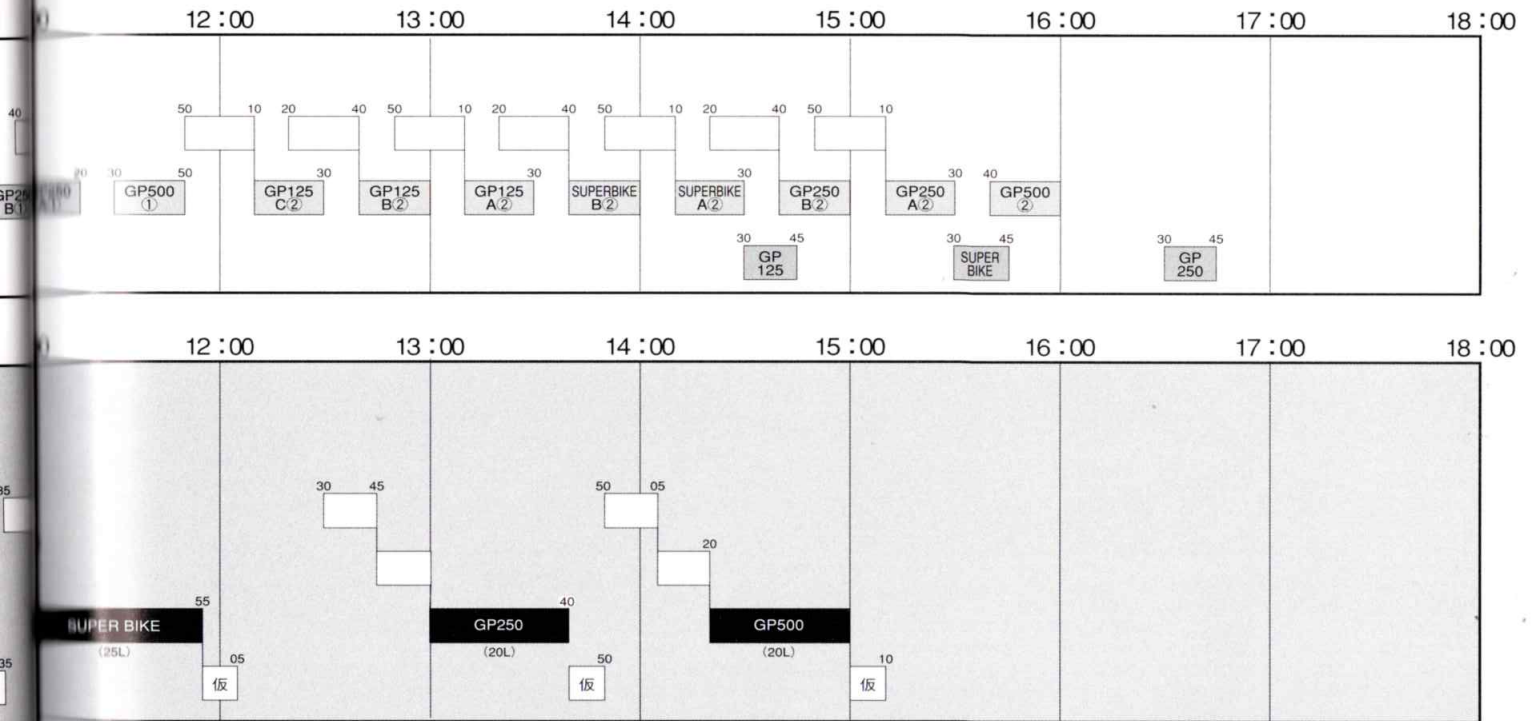
大会名誉総裁 HONORARY CHAIRMAN	桜中 良寿 Ryoju SAKURANAKA	村田町町長
大会名誉会長 HONORARY PRESIDENT	石塚 秀男 Hideo ISHIZUKA	(財)日本モーターサイクルスポーツ協会会長
大会名誉会長 HONORARY PRESIDENT	一カ 一夫 Kazuo ICHIRIKI	東北放送株式会社代表取締役社長
大会会長 PRESIDENT	松本 忠 Toshihiko HIRONISHI	スポーツランドSUGO代表取締役社長
大会副会長 VICE-PRESIDENT	渡辺 通弘 Michihiro WATANABE	スポーツランドSUGO取締役営業部長
大会組織委員長 PRESIDENT OF ORGANIZING COMMITTEE	太田 初美 Hatsumi OHTA	スポーツランドSUGO
大会組織委員 MEMBER OF ORGANIZING COMMITTEE	安松 幹夫 Mikio YASUMATSU	(財)日本モーターサイクルスポーツ協会理事
大会組織委員 MEMBER OF ORGANIZING COMMITTEE	芳野 憲雄 Norio YOSHINO	スポーツランドSUGO

大会審査委員会 JURY OF THE METTING

大会審査委員長 JURY PRESIDENT	藤井 瑋美 Teruyoshi FUJII	MFJロードレース委員長
大会審査委員 JURY MEMBER	神谷 忠 Tabashi KAMIYA	MFJロードレース副委員長
大会審査委員 JURY MEMBER	杉本 五十洋 Isayo SUGIMOTO	MFJロードレース国際委員
大会審査委員 JURY MEMBER	板橋 康行 Yasuyuki ITABASHI	MFJ東北ブロックロードレース委員長
大会審査委員 JURY MEMBER	太田 初美 Hatsumi OHTA	MFJロードレース委員

大会競技役員 Chief Officials

大会競技監督	若林 太市	救護・レスキュー長	大槻 克仁	大沼 亮子	マーシャルカー ドライバ	大平 良彦
副	後藤 秀典	副	伊藤 正信	荒 智美		
管制長	伊藤 力雄	コース長	佐々木美津也	北島 育子	ドクターカー ドライバ	大槻 幸夫
員	後藤 洋二	副	三浦 正樹	大橋 恵美子		
計時長	佐藤 和則	大会事務局長	新田 尚宏	関田 希	スタートシグナル	前田 賢二
副	渡辺 理一	事務局次長	高橋 吉男	M F J 事務局		
進行・ピット・パドック長	山田 裕一	事務局員	隠岐 直廣	後藤 玲	レースクイーン	小嶋 由美子
副	佐竹 良美		渡辺 俊義	桑原 修		船渡 幸恵
車検長	菅野 光一		桑谷 伸	相馬 浩隆		宮崎 聖子
副	永井 謙		森 健太郎	大会アナウンサー		二瓶 有香
			船山 匠	みし奈昌俊		
				佐々木恵一		



大会競技委員 Race Officials

時計委員	救護委員	コース委員	後藤 裕樹 和田健太郎 猪股 利恵 吉田 明宏 成田 優樹 上沢 和成 東海 幸康 鷹取 史生 吉田 淳宏 原田 忠彦 中村 彰良 佐藤 真美 東海 幸康 佐々木幸夫	居鶴 恭幸 加島 哲浩 竹内 栄司 高橋 美穂 大槻 信行 高橋 康一 山ノ内亮人 大藤 義顕 浦部 晶彦 久保田 栄 菅野 登 佐藤 啓子 小森 知行 谷津 吉広	川口 順央 加藤 るみ 原 大周 菅原 茂 中川 由香 平山紀美子 竹内 寿昭 田中 浩 土居 武史 宮田 智弥 相澤 典子 下枝 健一 田口 和博 早坂 健一	進行・ピット・パドック委員	車検委員
秋山 豊 秋山 雄志 植松 美紀 林 晃子 秋山 未知 浪岡 周一 村越 征巳 高橋ますみ 佐藤 裕子 下浦 道子 林 絵里子 鈴木麻衣子	菅野 正敏 手塚 暁彦 遠藤 善久 中田 大輔 石田 俊晴 千葉 尚 醍醐 隆行 加藤 昭夫 岩沢 裕樹 大友伸太郎 本木 竜一 月舘 宏明	片山 吉宏 平野 輝充 山田 祥子 奥平 英人 川口 文明 大内 淳介 菊地アカネ 小林 陽一 北村 政彦 大堀 幸二 小野恵美子 原 純一	高橋 仁 佐々木裕一 大瀧 悦子 吉村久美子 鎌田美喜子 後藤 真理 手塚 美恵 沢目 京子 柏倉久仁子 亀山 大輔 石川 祥子 久保 博司	佐藤 新一 丹 俊雄 戸村 次男 マズラン 金子 真実 沼田 保則 林 宗俊 アハマド 工藤 浩 ジョウハリ 鈴木 史子 宮内 勇 中村 浩子			

'97全日本ロードレース第11戦イベント

1 ピットウォーク

日時:11/2 ●ピットウォーク12:00~
場所:SUGOインターナショナルレーシングコース
※当日パドック券購入者のみ対象となります。

2 レーシングコース体験走行会

日時:11/2 15:30~16:30(予定)
場所:SUGOインターナショナルレーシングコース
※レーシングコースを自車(125cc以上のオンロード車)で走行。

3 ファンミーティング~チャンピオン報告会

各クラスのチャンピオンが一堂に勢揃いし、
応援してくれたファンに対してファンサービ
スを実施します。

※レース終了後のイベント開始時(15:30)
からはパドック無料解放

日時:11/2 15:30~16:30(予定)

場所:コントロールタワー横・表彰台

出演ライダー:各チャンピオン

(SB:芳賀紀行・GP250:加藤大次郎・GP125:未定)

INT-SB SUPER BIKE



芳賀紀行、最多勝記録に並べるか それをだれが阻止するのか!?

97年全日本ロードレース選手権スーパーバイククラスは、全11戦(9月の鈴鹿は2ヒートのためレース数としては全12レース)の内、9戦目に当たる、9月の筑波大会でチャンピオンが決定した。

97年全日本の最高峰クラスのチャンピオンとなったのは、マールボロ・ヤマハの芳賀紀行。22歳とまだ年齢は若いライダーだが、全日本選手権参戦5年(最初の1年目は250クラスに参戦)、スーパーバイク4年の経験を持っている。昨年の鈴鹿8耐でも優勝。さらに今年の世界選手権スーパーバイクSUGOラウンドでも1勝(第2レース)を挙げている。来シーズンは世界選手権スーパーバイクシリーズへのフル出場することがうわさされており、今回のレースは、新しい舞台への飛躍するための一戦となる。

芳賀は今シーズン開幕戦の鈴鹿を制し、第10戦TIまでに7勝をマークしている。この記録は、昨年のチャンピオンである青木拓磨の持つシーズン8勝に迫るもの。惜しくもTIでは勝利を逃し、新記録樹立への期待は途絶えたものの、この最終戦にはタイ記録への挑戦がかかっている。

今シーズンの芳賀は、それまで持っていた抜群の速さに、安定性をも身につけた。雨のレースとなった第7戦MINEを除いたレースで表彰台に上り、全戦でポイントを獲得している。そして、タイトルが見えてきた後半戦になって、プレッシャーに負けることなく勝ち続けた。勝つか転ぶかという昨年までの走りから脱却した自信にあふれる芳賀の走りは、チャンピオンにふさわしいものだ。

こうしてみると、今シーズンのスー

パーバイクは芳賀の独壇場だったようにも思えるが、決してそういうわけではなかった。

シリーズの前半戦、鈴鹿8耐の直前まで、芳賀にはライバルが存在した。それが、カストロール・ホンダの武田雄一である。開幕戦で2位に入賞した武田は、第2戦では優勝。以後、第6戦まで芳賀が4勝、武田2勝と表彰台の頂点も奪い合うトップ争いを展開した。もちろん、ポイントテーブル上でも、芳賀と争いを繰り広げたのは武田だった。

そして、8耐をはさんで後半戦へと入り、当然、芳賀と武田の二人により、今シーズンのチャンピオンが争われるものと思われていた。ところが、武田は前半戦の好調さを突然、失ってしまう。

チャンピオン争いに決定的な差が付



Rd.1 SUZUKA

レース序盤こそ7台でのトップ争いとなるが、芳賀と武田が抜け出し、一騎討ちとなる。レース終盤になると、芳賀が武田を引き離し、開幕戦を制した。3位には梁が入った。

PP: 北川圭一		
P	RIDER	M
1	芳賀紀行	Y
2	武田雄一	H
3	梁 明	K
4	北川圭一	S
5	伊藤真一	H
6	藤原克昭	S



Rd.6 SUGO

芳賀がホールショットを奪い、レースをリードしていく。武田は出遅れ、追いつきのレースとなる。だが、2位が精一杯。芳賀が独走で4勝目を挙げた。3位は復調した武石。

PP: 武石伸也		
P	RIDER	M
1	芳賀紀行	Y
2	武田雄一	H
3	武石伸也	K
4	吉川和多留	Y
5	伊藤真一	H
6	芹沢多麻樹	S



Rd.2 SUGO

またも芳賀VS武田のバトルとなった。ここでは武田が芳賀をやはりレース終盤に引き離し全日本初優勝を飾った。3位には梁を抑えきった吉川が入賞。5位に藤原、6位に芹沢。

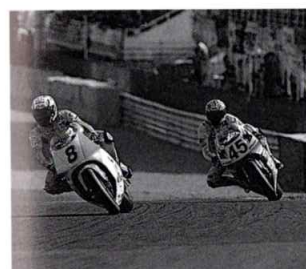
PP: 武田雄一		
P	RIDER	M
1	武田雄一	H
2	芳賀紀行	Y
3	吉川和多留	Y
4	梁 明	K
5	藤原克昭	S
6	芹沢多麻樹	S



Rd.7 MINE

スタート直前に強い雨が降り、スタートデレイとなる。ウエットの中、行なわれたレースは伊藤が宗和をかわしてトップに立つと、そのままチェッカーを受け全日本SB初優勝。

PP: 宗和孝宏		
P	RIDER	M
1	伊藤真一	H
2	宗和孝宏	H
3	梁 明	K
4	芹沢多麻樹	S
5	芳賀紀行	Y
6	武石伸也	K



Rd.3 TSUKUBA

飛び出したのは芳賀。これを武田が追うが、抜くまでには至らず、芳賀が徐々にリードを広げていく。芳賀は武田に約8秒の差をつけ、独走で2勝目を挙げた。3位は藤原。

PP: 芳賀紀行		
P	RIDER	M
1	芳賀紀行	Y
2	武田雄一	H
3	藤原克昭	S
4	梁 明	K
5	井筒仁康	D
6	芹沢多麻樹	S



Rd.8 SUZUKA

第1ヒートは芳賀、吉川、伊藤の3台でのトップ争いとなるが、芳賀が抑えきり優勝。第2ヒートは芳賀が独走優勝。藤原が2位に入った。芳賀が2ヒートを完全制覇した。

PP: 武石伸也		
第1ヒート		
P	RIDER	M
1	芳賀紀行	Y
2	伊藤真一	H
3	吉川和多留	Y
第2ヒート		
1	芳賀紀行	Y
2	藤原克昭	S
3	吉川和多留	Y



Rd.4 SUZUKA

200kmという長丁場のレースだったが、またも芳賀と武田の争いとなる。勝負の分かれ目は迅速なピットワークだった。ヤマハのクルーが芳賀を後押しし、3勝目をゲットした。

PP: 芳賀紀行		
P	RIDER	M
1	芳賀紀行	Y
2	武田雄一	H
3	藤原克昭	S
4	伊藤真一	H
5	吉川和多留	Y
6	柳川 明	K



Rd.9 TSUKUBA

タイトルに王手をかけて望んだ芳賀と藤原がトップ争いを展開。芳賀が周回遅れをうまく使い、リードを広げる。そして独走体制に持ちこみチェッカー。優勝でタイトルを決めた。

PP: 武石伸也		
P	RIDER	M
1	芳賀紀行	Y
2	藤原克昭	S
3	武石伸也	K
4	伊藤真一	H
5	北川圭一	S
6	吉川和多留	Y



Rd.5 FISCO

序盤は7台でのトップ争いとなるが、最後は芳賀、武田、藤原が抜け出す。最終ラップの最終コーナーでは芳賀がトップで立ち上がる。だが、ストレートで武田が逆転し2勝目。

PP: 芳賀紀行		
P	RIDER	M
1	武田雄一	H
2	芳賀紀行	Y
3	藤原克昭	S
4	伊藤真一	H
5	武石伸也	K
6	吉川和多留	Y



Rd.10 TI

藤原と芳賀の一騎討ちとなる。バックマーカーが大量に出現する中、デッドヒートは続く。最後は藤原が逃げきりポールtoフィニッシュでスズキ移籍後初めての優勝を達成した。

PP: 藤原克昭		
P	RIDER	M
1	藤原克昭	S
2	芳賀紀行	Y
3	吉川和多留	Y
4	梁 明	K
5	北川圭一	S
6	塚本昭一	K

いたのは第8戦鈴鹿。2ヒート制で争われたこのレースで、芳賀が2ヒート優勝/40ポイントを獲得したのに対し、武田は9ポイント獲得に留まった。そして、次の第9戦筑波、芳賀の優勝でチャンピオン争いはあっけない決着を見る。

しかし、このとき、芳賀の勝利を阻止するべく戦ったライダーがいた。それが、現在ランキング2位につけるラッキーストライク・スズキの藤原克昭だ。

藤原はシーズンの前半戦で3度3位表彰台に上がりながらも、芳賀と武田のトップ争いまでには絡めずにいた。しかし、8耐を終えて全日本も後半戦に入り、マシンの熟成が進むと共に、本来の速さを発揮し始める。第9戦鈴鹿の第2ヒート、第10戦筑波を芳賀に続く2位で戦い終えた藤原は、続く第11戦TIでは、芳賀

と一騎討ちの末に、スズキ移籍後初めてとなる今シーズン初優勝を手にした。藤原は来シーズン、世界グランプリへ参戦することが決まっている。全日本スーパーバイクでの藤原の最後の勇姿を見届けてほしい。

このように、今シーズンのスーパーバイククラスは、若手ライダーの活躍が目立つシーズンとなった。その一方で、ベテランライダーは、どんな戦いを演じたのだろうか。

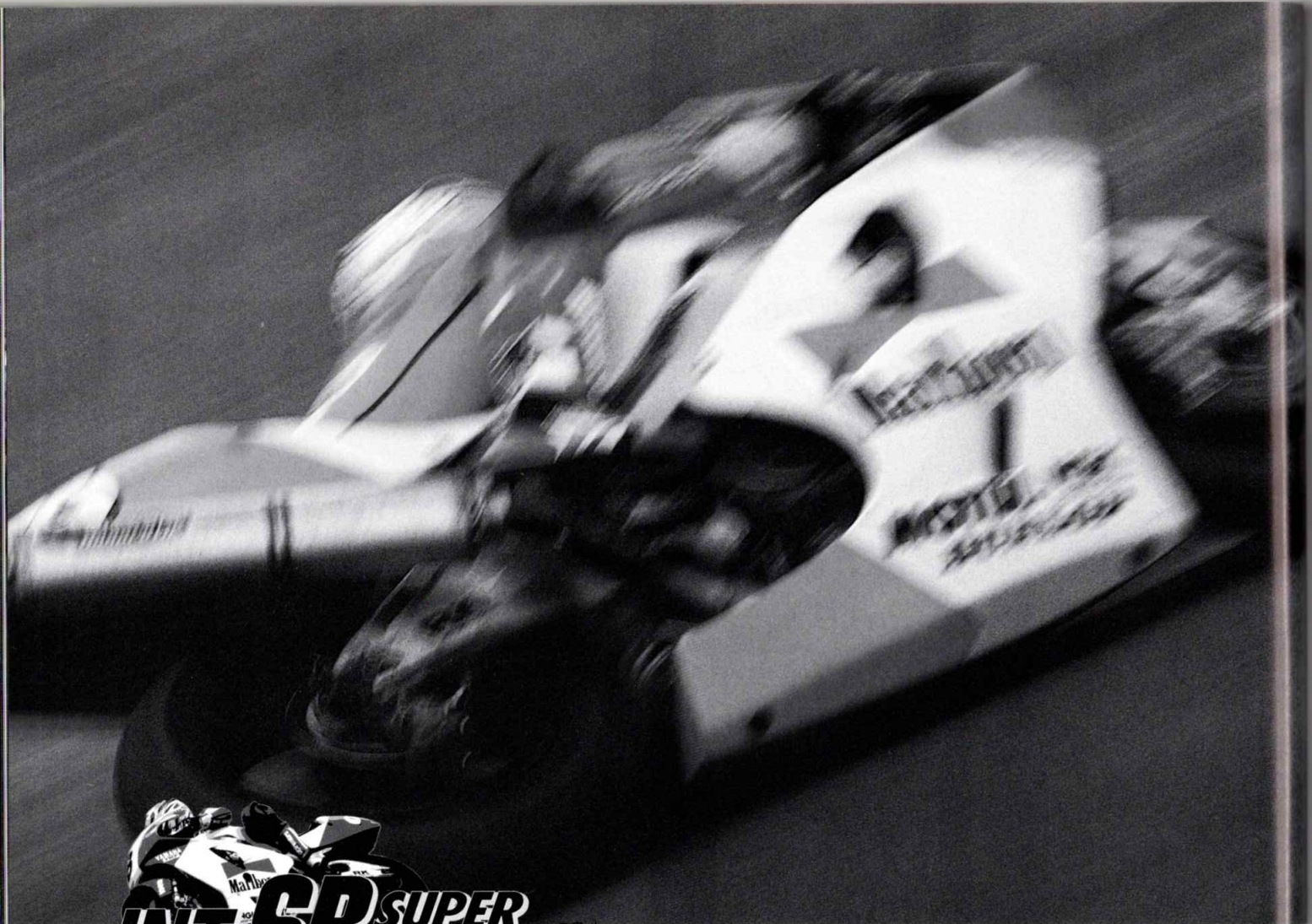
カストロール・ホンダのエースとして、昨年までの世界グランプリから今年、全日本に戻ってきた伊藤真一は、鈴鹿8耐での優勝に続いて、第7戦MINEで1勝をマークしている。昨年までワールドスーパーバイクを戦っていたマルポロ・ヤマハの吉川和多留も、全日本に復帰。後

半戦に入って表彰台の常連となっている。

残念ながら、11戦終了時点で勝ち星に恵まれていないカワサキ勢だが、梁明と武石伸也が、これまで3位表彰台にそれぞれ2度上っている。ラッキーストライク・スズキの北川圭一は、第2戦SUGOの事前テストで転倒、シーズンの大半年を療養のために欠場したが、第8戦鈴鹿から元気な姿で復活している。

チャンピオン争いに決着が付いたとはいえ、ポイントランキング争いのし烈さは変わらない。今シーズン最後のレース、各ライダー共に勝ちをねらって、激しいバトルが繰り広げられることは必至だ。芳賀がチャンピオンの意地を見せるのか？

それとも…。10台のワークスマシンのしごきを削るスーパーバイクのレースが今、スタートする。



INT-SB SUPER BIKE

4大ワークスが威信をかけて臨む
 スーパーバイククラス
 ワークスライダーも実力ぞろいだ
 芳賀紀行が圧倒的な強さを見せた今シーズン
 昨年、青木拓磨の記録した年間8勝という
 最多勝記録に紀行が並ぶのには
 ここで勝たなくてはならない
 紀行が勝って最多勝記録に並ぶのか
 それともほかのライダーが意地を見せるか
 今年最後のバトルが始まる



2 梁 明
 カワサキ ZX-7RR
 KRT RR

1967年10月20日生まれ。30歳。東京都出身。175cm/60kg/O型。90年、国際A級昇格。全日本TT-F1クラスに参戦。92年よりTT-F1クラスにスイッチ。トップライダーとして活躍する。スーパーバイクとなった94年には、第2戦MINEでワークス勢を破り優勝を飾る快挙をなし遂げる。この年のランキングは8位。95年はランキング9位。昨年よりカワサキワークス入りし、ランキング2位とジャンプアップ。だが、今シーズンはいまひとつ梁らしいキレが見られずにいる。



4 北川 圭一
 スズキGSX-R750
 ラッキーストライク・スズキ

1967年3月24日生まれ。30歳。京都府出身。173cm/66kg/A型。90年に国際A級に昇格し、TT-F1クラスを戦う。92年にはランキング2位。93年はカワサキワークス入りし、TT-F1クラス最後の全日本チャンピオンに輝く。94年はランキング3位。95年の鈴鹿200kmで、大ケガを負うが、不屈の精神で蘇る。昨年よりスズキワークスに移籍。第6戦SUGOでの優勝を含む、ランキング4位となる。今季はテストで負傷し、第7戦まで欠場。第8戦より復帰し、本来の速さが戻ってきている。



5 藤原 克昭
 スズキGSX-R750
 ラッキーストライク・スズキ

1975年3月27日生まれ。22歳。山口県出身。171cm/63kg/O型。92年、青木治親と組み鈴鹿4耐を制覇。93年より全日本GP250クラスにデビュー。94年は初優勝を含むランキング3位となる。95年にカワサキ入りし、スーパーバイククラスに参戦。非凡な才能を見せつけ、2勝を含むランキング3位となる。昨年よりスズキに移籍しランキング5位。今季は前回のTIで待ち望んでいた優勝を果たした。来シーズンの世界グランプリ参戦も決まっており、今回が全日本SBでの最後の勇姿となる。



6 武石 伸也

カワサキZX-7RR
KRT RR

1967年10月5日生まれ。30歳。北海道出身。173cm/65kg/A型。91年、国際A級に昇格。TT-F1クラスを走る。92年よりワークスマシンを手に入れる。ホンダのエースとして活躍しランキング3位となる。93年は2位。94年よりホンダワークス入り。ランキングは5位。95年はランキング2位。昨年、カワサキワークスに電撃移籍。初めてのZX-7RRながらランキング6位となる。今季は、結果こそ残せていないが、キレのある走りを見せている。予選の速さが決勝でいかに出すかがカギだ。



8 芳賀 紀行

ヤマハYZF750
Marlboro YAMAHA

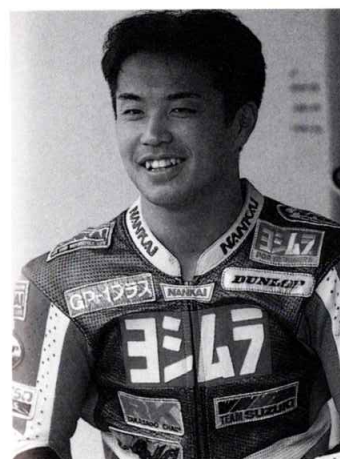
1975年3月2日生まれ。22歳。愛知県出身。170cm/66kg/B型。93年に国際A級に昇格しGP250クラスを戦う。94年よりスーパーバイククラスにスイッチ。ランキング9位となる。昨年は初優勝を含むランキング8位。また、鈴鹿8耐ではエドワーズと組み優勝。最年少記録を更新している。正式にヤマハワークス入りした今季は、圧倒的な強さと安定感を見せ、2戦を残しチャンピオンに輝いている。10月に行なわれたWSBのSUGOラウンドでも勝っており、今回も優勝候補の最右翼だ。



41 宗和 孝宏

ホンダRVF/RC45
K's GARAGE SOHWA

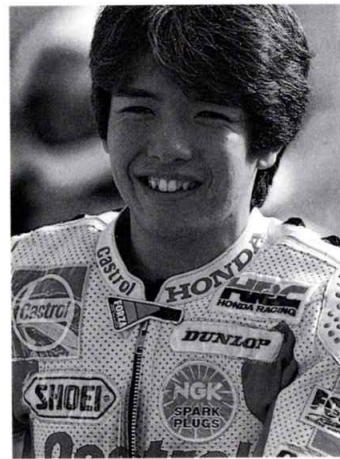
1965年9月21日生まれ。32歳。兵庫県出身。179cm/67kg/B型。87年に国際A級に昇格。カワサキワークスでTT-F1クラスを戦う。91年にはランキング3位となる。93年からAMAスーパーバイクに参戦。94年にはランキング3位と大健闘する。95年はドゥカティにスイッチするがトラブルに泣かされる。昨年より、全日本にドゥカティで復帰。ランキング15位となる。今シーズンよりホンダのワークスマシンRVF/RC45を手に入れる。第7戦では2位と久しぶりに表彰台をゲットしている。



11 芹沢 太麻樹

スズキGSX-R750T
ヨシムラ・スズキ GP1プラス

1972年9月28日生まれ。25歳。埼玉県出身。168cm/65kg/O型。モトクロス国際A級の腕前を持ちながら、92年よりロードレースに転向。93年にはスーパーカップイスタンシリーズGP250クラスでチャンピオンに輝き非凡な才能を見せる。94年にロードレースでも国際A級に昇格。開発ライダーとしてヨシムラ入りする。96年はヨシムラのエースとして走り、ランキング11位となる。今季は常にワークス勢に食い込む走りを見せており、ランキングも7位と大健闘。豪快なライディングが魅力だ。



45 武田 雄一

ホンダRVF/RC45
Castrol HONDA

1977年11月29日生まれ。19歳。埼玉県出身。171cm/58kg/A型。94年、地方選手権GP250、SP250クラスで活躍。95年より世界グランプリに併催されていたサンダーバイクに参戦しランキング13位となる。昨年よりホンダワークス入り。全日本スーパーバイクを戦いランキング7位。WSB SUGOラウンドでは日本人初優勝を達成。急成長を見せた。今季は第2戦、第5戦で優勝するが、鈴鹿8耐に境に、成績は低迷している。序盤の勢いを取り戻してシーズンを終えたいところだ。



20 吉川 和多留

ヤマハYZF750
Marlboro YAMAHA

1968年9月26日生まれ。28歳。東京都出身。170cm/62kg/A型。91年、国際A級に昇格。TT-F1クラスに参戦。トップブライベーターとして速さを見せる。93年のシーズン途中よりヤマハワークス入り。94年には全日本スーパーバイク初代チャンピオンに輝いている。95年はランキング4位。昨年はワールドスーパーバイクにフルエントリー。思ような成績は残せずランキング9位となる。今シーズン全日本に復帰。シーズン終盤にきて上り調子だけでなく、是非とも優勝をねらいたいところだ。



72 伊藤 真一

ホンダRVF/RC45
Castrol HONDA

1966年12月7日生まれ。30歳。宮城県出身。179cm/68kg/B型。88年に国際A級昇格。同時にHRC入りし、全日本500ccクラスのエースとして抜擢される。90年には同クラスでチャンピオンに輝く。93年より世界グランプリにフル参戦を開始。93年、94年とランキング7位。95年にはランキング5位となる。昨年はデビューしたてのNSR500VでGPを戦った。今シーズンより全日本に復帰しスーパーバイククラスを走る。ここにきて調子を上げてきているだけに、地元で勝ちたいところだ。

INT GP250



新王者として負けられない大治郎 意地を見せたい芳賀、加賀山、そして中野、

95、96年と2年連続で全日本250チャンピオンを獲得したベテランの沼田憲保が、世界グランプリへと旅立ち、今年の250クラスは若手ライダー中心の展開となった。

しかし、シリーズのスタートの前に大きなアクシデントが起こる。96年度ランキング2位の加藤大治郎が、開幕戦の直前に交通事故で負傷。欠場することになってしまったのだ。

ゼッケン1、2不在の中で始まった今年の開幕戦を制したのは、スズキの加賀山就臣。125からステップアップしたばかりの中野真矢が2位に入り、市販TZを駆る松戸直樹が3位表彰台を得る。本来、勝って当たり前前のゼッケン3を付けた芳賀健輔は、トラブルで5位でチェッカーを受けるのがやっとな。加藤のケガ

から始まり、今シーズンの全日本250クラスは波らんの幕開けとなった。

約1カ月あまりの療養生活を終えて、加藤がサーキットに戻ってきたのは、4月の日本GPの直前だった。加藤は自身にとって97年の開幕戦となる日本GPで優勝を飾る。そして、その1週間後に開催された第2戦SUGOでも優勝、第5戦FISCOまで4連勝を飾り、この時点で加藤はランキングもトップに立つ。苦戦するライバルたちを横目に、加藤は着実にポイントを積み上げながら、タイトルへ向けて大きく前進した。

そんな中で、第6戦SUGO、第7戦MI NEと2勝をマークしたのが、今シーズンからヤマハワークス入りした250ルーキーの中野真矢。第7戦までに優勝2回、2位3回という好成績を残していた。し

かし、その中野もチャンピオン争いにとって大切な時期である終盤戦の第8戦、第9戦を2戦連続でノーポイントレースを作ってしまう。

また、ヤマハのエースである芳賀も、確実に上位でチェッカーを受ける実力を持ちながら、不運が続き、なかなか勝つことができずにいた。さらに、開幕戦を制した加賀山も、その後、確実にポイントはかせくものの、中盤戦は表彰台一歩手前というレースが続き、加藤のリードを許す結果となってしまった。

そして加藤は、第8戦鈴鹿、第9戦筑波と連勝し、チャンピオンに王手をかけて第10戦TIに臨んだ。

94年の全日本デビュー以来、加藤の才能はだれもが認めていた。しかし、転倒などでポイントを落とすこともあり、



Rd.1 SUZUKA

大治郎が開幕直前に事故に遭い欠場。レースは芳賀が独走するがトラブルで後退。加賀山がトップに立つと、追いつがる中野を振り切り、うれしい全日本初優勝を飾った。

PP: 加賀山就臣		
P	RIDER	M
1	加賀山就臣	S
2	中野真矢	Y
3	松戸直樹	Y
4	小倉直人	Y
5	芳賀建輔	Y
6	玉田 誠	H



Rd.6 SUGO

芳賀、中野、加賀山、亀谷のトップ争いとなるが、霧で中断。2ヒート目で中野が抜け出し、むずかしいコンディションのレースを制した。中野は全日本初優勝を成し遂げた。

PP: 中野真矢		
P	RIDER	M
1	中野真矢	Y
2	芳賀建輔	Y
3	加藤大治郎	H
4	亀谷長純	S
5	加賀山就臣	S
6	松戸直樹	Y



Rd.2 SUGO

全日本復帰第1戦となった大治郎が予選でコースレコードをマーク。決勝も独走でチェッカーを受け今季1勝目。2位争いは加賀山が芳賀を抑えきりゴール。4位は亀谷だった。

PP: 加藤大治郎		
P	RIDER	M
1	加藤大治郎	H
2	加賀山就臣	S
3	芳賀建輔	Y
4	亀谷長純	S
5	原田伸也	Y
6	小倉直人	Y



Rd.7 MINE

スタート直前に雨が降り出し、ウェットコンディションに。芳賀がレースをリードするが3周目に転倒。終盤にタイムアップを果たした中野が逃げきり、2連勝を飾った。

PP: 加藤大治郎		
P	RIDER	M
1	中野真矢	Y
2	松戸直樹	Y
3	加藤大治郎	H
4	小倉直人	Y
5	澤田 令	H
6	中富伸一	H



Rd.3 TSUKUBA

またも大治郎がポールtoフィニッシュで独走優勝。2位に芳賀。3位を走っていた中野はトラブルが発生しリタイア。松戸が2度目の3位表彰台をゲットした。

PP: 加藤大治郎		
P	RIDER	M
1	加藤大治郎	H
2	芳賀建輔	Y
3	松戸直樹	Y
4	玉田 誠	H
5	亀谷長純	S
6	加賀山就臣	S



Rd.8 SUZUKA

大治郎、芳賀のワークス勢に玉田がトップ争いに絡む。だが、玉田は徐々に遅れ単独3位に。その後、大治郎、芳賀のマッチレースとなる。結局、大治郎が芳賀を抑えきり5勝目。

PP: 加藤大治郎		
P	RIDER	M
1	加藤大治郎	H
2	芳賀建輔	Y
3	玉田 誠	H
4	松戸直樹	Y
5	亀谷長純	S
6	加賀山就臣	S



Rd.4 SUZUKA

大治郎、芳賀、加賀山、中野の4台でのトップ争いとなるが、芳賀、加賀山が絡み脱落。大治郎が中野を引き離し3連勝を飾る。3位には玉田誠が入賞し初めて表彰台に上がった。

PP: 中野真矢		
P	RIDER	M
1	加藤大治郎	H
2	中野真矢	Y
3	玉田 誠	H
4	亀谷長純	S
5	加賀山就臣	S
6	森兼正明	H



Rd.9 TSUKUBA

予選でコースレコードをマークした大治郎が独走体制に持ち込み6勝目を挙げる。2位には加賀山が芳賀を抑えきり第2戦以来の表彰台。激戦となった4位争いは関口が制した。

PP: 加藤大治郎		
P	RIDER	M
1	加藤大治郎	H
2	加賀山就臣	S
3	芳賀建輔	Y
4	関口太郎	Y
5	松戸直樹	Y
6	中富伸一	H



Rd.5 FISCO

レース序盤こそ大治郎に芳賀が絡むが、芳賀にトラブルが発生すると、またもや大治郎が独走。大治郎は負けなしの4連勝を飾った。2位には最後に芳賀をかした中野が入った。

PP: 加藤大治郎		
P	RIDER	M
1	加藤大治郎	H
2	中野真矢	Y
3	芳賀建輔	Y
4	加賀山就臣	S
5	松戸直樹	Y
6	原田伸也	Y



Rd.10 TI

タイトルに王手をかけた大治郎が芳賀とのバトルを制し、ポールtoフィニッシュで初タイトルを決めた。これでシーズン7勝目となる。2位に芳賀、3位に中野と続いた。

PP: 加藤大治郎		
P	RIDER	M
1	加藤大治郎	H
2	芳賀建輔	Y
3	中野真矢	Y
4	松戸直樹	Y
5	関口太郎	Y
6	玉田 誠	H

昨年までは、チャンピオン争いの渦中に、最後の最後までいることはなかった。今シーズンは、HRCワークスライダーとして1年目のシーズン。その上、開幕戦での出遅れもあって、かかるプレッシャーは相当なはずだった。

しかし、TIでのタイトル決定の条件は、加藤にとって比較的楽なものだったとも言える。ランキング2位の加賀山が優勝しても、加藤は9位以内でチェッカーを受ければよく、もし、加賀山が優勝を逃せば、その時点で加藤のタイトルは決定するからだ。

そんな状況の中で加藤は、芳賀と一騎討ちのトップ争いを展開。攻めのレースで優勝を手にし、チャンピオンを獲得した。10戦中、欠場した開幕戦を除いて、加藤は7勝を挙げ、残りのレースもすべ

て表彰台に立っている。ライバルたちが、あと一歩抜け出せない状況の中で、ピハインドを負ってシリーズを追いかけなければならなかった加藤が、そのハンディを取り返し、ポイント的には余裕すら持って、チャンピオンへとたどり着いたのだ。今回の最終戦に加藤が勝てば、90年の岡田忠之と並ぶ、シーズン8勝(この年は年間12戦だった)の全日本250タイ記録となる。チャンピオン獲得、優勝回数など、近い将来のグランプリ参戦に向けての課題を、加藤は今シーズン次々にクリアしている。

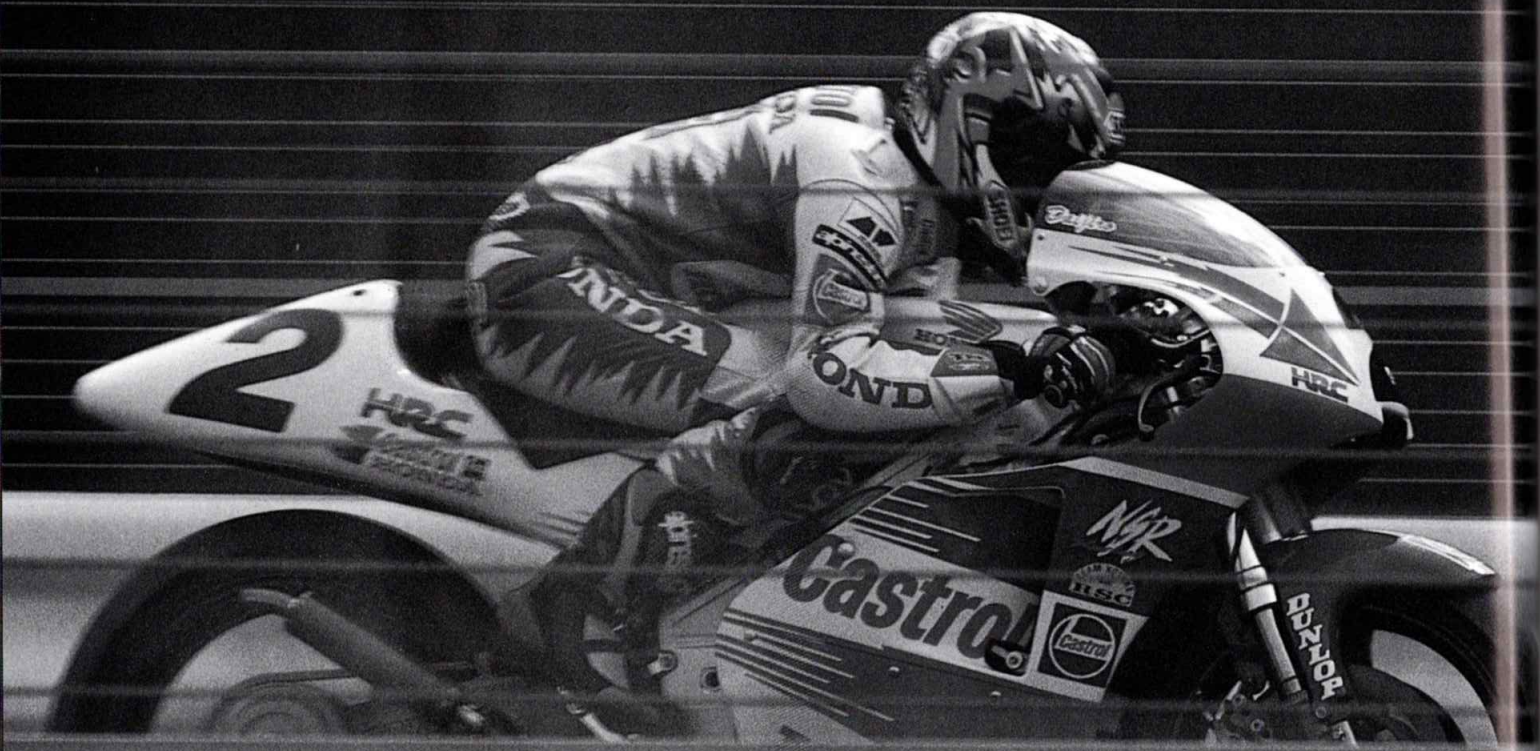
さて、ここまでまったくスキのないレースを見せてきた加藤を止めるのは一体だれなのか? 最終戦SUGOの焦点は、やはりここにあるだろう。

ヤマハの芳賀、中野、スズキの加賀山、

亀谷長純ら各ワークスライダー、さらにはプライベートーとして、今シーズン、ときにはワークスライダーと互角な走りを見せて、表彰台に上がる活躍を見せた松戸直樹や玉田誠の存在も見逃せない。だれもが、勝利を望んでレースに臨んでくるはずだ。だからこそ、決勝レースは混戦の展開となるだろう。

特に、ランキング2位の芳賀から5位の松戸までのポイント差は接近している。ランキングの逆転、またはキープを考えた、それぞれのライダーの戦いも見逃せないだろう。

タイトル争いに決着がついてもなお、シーズン最後のレースは白熱するはずだ。ライダーの実力の拮抗した250クラスの最終戦のゴールラインに真先に飛び込んで来るのはだれだ?



INT-**GP250**



ついにクライマックスを迎えた97シーズン
GP250クラスはすでにTIラウンドで
加藤大治郎がチャンピオンに輝いた
これにヤマハのエース芳賀健輔
そして、急成長を続ける中野真矢に
加賀山就臣、亀谷長純のスズキワークス勢が
最後の一矢を放てるのだろうか？
それとも大治郎が8勝目を挙げるのか？
また、松戸、玉田、原田、小倉、野田、関口らの
トッププライベートーたちの走りも要注目だ



2 加藤 大治郎

ホンダNSR250
Castrol HONDA

1976年7月4日生まれ。21歳。
埼玉県出身。162cm/48kg/A型
幼少のころからミニバイクを始め、
全国で活躍。93年は、地方選手権で
活躍。94年に国際A級に昇格し全日
本GP250クラスにデビュー。初優
勝を含むランキング7位となる。95
年は2勝を挙げランキング5位。96
年はランキング2位。今季は開幕直
前に交通事故に遭い欠場。だが復帰
した日本GPで優勝。その後も全日
本で7勝を挙げ、前戦で97年のチャン
ピオンに輝いた。今回はチャンピ
オンらしい走りを見せてくれるはずだ。



3 芳賀 健輔

ヤマハYZR250
Marlboro YAMAHA

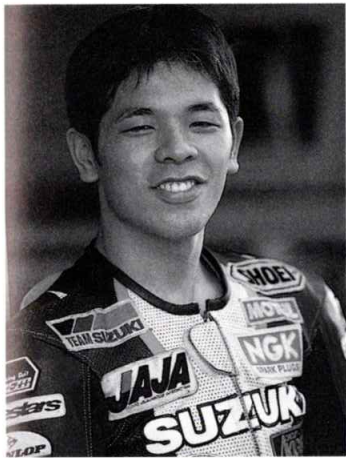
1973年6月1日生まれ。24歳。
愛知県出身。173cm/63kg/B型
92年に国際A級に昇格し全日本
にデビュー。94年にヤマハワーク
スに入りし、ランキング9位。95
年はランキング6位。そして昨年は、
初優勝を含む2勝を挙げ最終戦ま
でタイトルを争う。だが、最終戦で
マシントラブルに見舞われリタイア。
ランキング3位となる。今シーズ
ンは、トラブルやアクシデントが多く、
大治郎のタイトル獲得を阻止でき
なかった。最後は勝ってシーズ
ンを終えたいところだろう。



5 松戸 直樹

ヤマハTZ250
コンパイルレーシングヤマハ

1973年7月25日生まれ。24歳。
千葉県出身。166cm/65kg/A型
92年、国際A級昇格。全日本TT-F
1クラスにデビューしランキング16位。
93年よりGP250クラスにスイッチ
しランキング17位となる。94年、
10位。95年、15位。昨年、コン
パイルレーシングヤマハに移籍。
プライベート最上位のランキング
5位となる。今季は開幕戦、第3戦筑
波で3位に入賞。第7戦でも、大治郎
をパスして2位に入賞。ワークスマ
シンを相手に互角以上の速さを見せ
ている。今回も表彰台をねらう。



6 亀谷 長純

スズキRGV1250
JAJA RACING TEAM

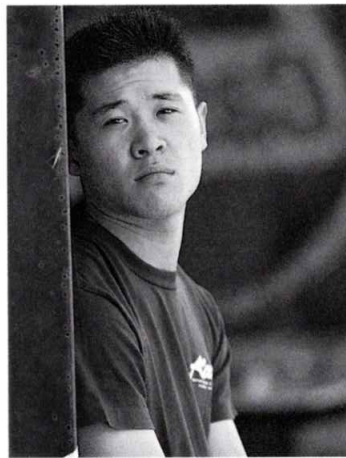
1976年11月10日生まれ。20歳。埼玉県出身。163cm/57kg/AB型。94年、SUGO選手権SP250クラスチャンピオンを始め各地の地方選手権で活躍。95年、スズキワークス入りし、全日本にデビュー。GP250クラスにスポット参戦しランキング18位となる。昨年もスポット参戦となるが、2度の3位表彰台をマークしてランキング6位となる。今年初めてのフルエントリーとなり、タイトルを狙っていたが、歯車がかみ合わず低迷。今回は最低でも表彰台圏内でフィニッシュしたいところだ。



8 小倉 直人

ヤマハTZ250
IKKO RACING TEAM

1969年2月8日生まれ。28歳。新潟県出身。170cm/60kg/AB型。93年、国際A級に昇格。94年にIKKOレーシングに移籍。全日本GP250クラスを走りランキングは20位となる。95年はランキング12位。96年はランキング8位と着実にステップアップしているトッププライベーター。今シーズンは開幕戦の鈴鹿と第7戦のMINEで4位に入賞。鈴鹿8耐にも出場し、スーパーバイクを器用に乗りこなしていた。現在のランキングは9位。昨年を上回るためにも、表彰台をゲットしたいところだ。



14 玉田 誠

ホンダRS250R
Team 高武RSC

1976年11月4日生まれ。20歳。愛媛県出身。170cm/58kg/O型。94年、九州選手権のGP250、SP250クラスで活躍。95年に国際ライセンスを取得。全日本GP250クラスにデビューしランキング11位となる。昨年はランキング14位。今シーズンは第4戦鈴鹿で3位に入賞し、初めて表彰台に上がっている。その後、第8戦でもトップ争いに加わる健闘を見せ、再び3位に入賞する。現在ランキング6位。松戸とのトッププライベーターの座を賭けた争いも注目したいところだ。



11 加賀山 就臣

スズキRGV1250
JAJA RACING TEAM

1974年6月7日生まれ。23歳。神奈川県出身。170cm/64kg/A型。94年に国際A級に昇格。スズキで開発ライダーを担当。95年はスーパーバイククラスを走りランキング11位。昨年はGP250クラスにスポットでエントリー。速さはあるが、結果を残せなかった。しかし、今年は開幕戦でうれしい初優勝を達成。第2戦でこそ2位に入賞するが、その後第9戦で2位に入るまで表彰台から遠ざかってしまう。ライダーのポテンシャルは高いだけに、またキレのある豪快なライディングを見せてほしい。



15 野田 弘樹

ホンダRS250R
NUTS & H-I-T

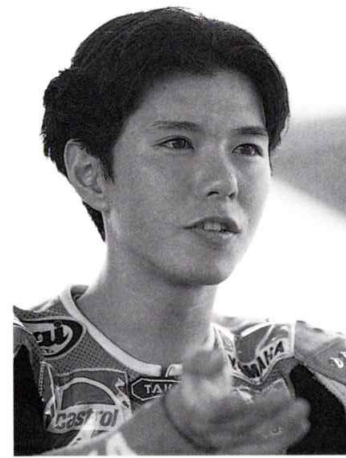
1970年3月27日生まれ。27歳。奈良県出身。175cm/60kg/AB型。90年、スーパーノビスとして鈴鹿、筑波、MINEの地方選手権で活躍。92年にはスーパーカップウエスタンGP250クラスチャンピオンに輝く。93年、国際A級に昇格し、全日本GP250クラスにデビューする。トッププライベーターとして活躍し、昨年はランキング15位となる。だが、今年は開幕直前まで走るチームが決まらず、ドタバタのシーズンインとなった。逆境をはね除け、初のシングルゼッケンをねらう。



13 関口 太郎

ヤマハYZR250
YESSレーシングチーム

1975年12月5日生まれ。21歳。東京都出身。173cm/64kg/B型。95年、全日本GP250クラスにデビューし、ランキング16位となる。昨年より、ヤマハのサテライトチームのYESSレーシングチームに移籍。飛躍をねらうが、ノーポイントも多くランキング13位となる。今シーズン序盤も、トラブルや転倒が多かったが、第9戦筑波では激しい4位争いを制し、自己最高位を更新。前回のTIではフロントロウからスタートして5位入賞と終盤にきて調子を上げてきている。



56 中野 真矢

ヤマハYZR250
YAMAHA RACING TEAM

1977年10月10日生まれ。20歳。千葉県出身。167cm/54kg/O型。94年、鈴鹿4耐での優勝を始め、全国の地方選手権で活躍。95年に全日本GP125ccクラスにデビュー。ランキング12位となる。昨年はランキング6位。そして、今年からヤマハワークス入り。同時にGP250クラスにステップアップ。開幕戦でいきなり2位に入賞し、周囲を驚かせる。その後も着実にYZRをものにして第6戦SUGOで初優勝。第7戦でも勝ち、2連勝をマーク。将来が楽しみなライダーの一人だ。

INT-**GP125**



ついに決着のときがきた 勝利の女神はだれにほほえむのか？

97年の全日本ロードレース選手権で、唯一、タイトル争いに決着が付いていないのがこのGP125クラスだ。

今シーズンはここまで、10戦を戦って高尾和弘、仲城英幸、秋田貴志、小澤敏明、菊池寛幸の5名のウイナーが誕生している。この中で、最終戦に向けてタイトル争いの権利を持つ者は、ランキングトップの秋田、2位の菊池、3位の小澤の3人に絞られている。

他のクラス以上にウイナーの数が多く、最終戦までチャンピオンが決まらないという事実が、GP125クラスの混戦ぶりを象徴している。

昨年のチャンピオンである東雅雄が、今シーズン、世界グランプリへと参戦したため、このクラスでは7年連続でゼッケン1不在のまま、新たなシーズンが争

われている。全日本のチャンピオンは翌年グランプリへとという図式こそが、125が最も世界に近いクラスと言われるゆえんでもあり、タイトルを争うライダーは世界を見据えて戦っている。

現在、その最短距離にいる秋田貴志は前年度ランキング17位と、昨シーズンまでは目立った成績を残していなかった。しかし、今シーズンよりチームを移籍、マシンも長年親しんだホンダRS125RからヤマハTZにスイッチし、恵まれた体制にも支えられて、今シーズン大きく飛躍したライダーの一人だ。第3戦の筑波で初優勝をなし遂げ、第6戦まで連続して表彰台に立つ。さらに第8戦でも再び優勝、第4戦以降、ポイントリーダーの座を守っている。タイトルへの不安要素のひとつとしては、初めてのチャンピオン

争いのプレッシャーと、チームメイトの上江洲克次がテスト中のケガが原因で、TI大会から欠場していることにあるだろう。

それを追う、ランキング2位の菊池寛幸は、95年にグランプリに参戦した経験を持つライダー。96年に再び全日本に戻った後、今シーズンからは新結成された「TUBEライダーズ・エイブルコミュニケーション」に所属。今シーズンの前半戦は、表彰台には立つものの、なかなか勝てないレースが続いていた。そんな菊池が、念願の初優勝を飾ったのが第7戦MINE。そして、第9戦筑波、第10戦TIと2連勝を飾り、今、最も乗れている。自力チャンピオンの可能性はないものの「とにかく最終戦は勝つしかない」と語っていた。

ランキング3位に付ける小澤敏明は、



Rd.1 SUZUKA

スタートからレースをリードしたのは高尾。これに上江洲と菊池が続き、三つ巴の戦いとなる。その後、高尾がファステストラップを出しながらリードを広げ、開幕戦を制した。

PP:藤岡祐三	
P	RIDER M
1	高尾和弘 H
2	上江洲次夫 Y
3	菊池寛幸 H
4	大崎誠之 H
5	大塚勇二 H
6	久保和寛 Y



Rd.6 SUGO

スタートから飛び出したのは菊池。だが、小澤が6周目にトップに立つと、そのまま独走体制を築き2連勝を飾る。2位争いは、秋田が藤岡を抑えた。4位に大塚、5位に高尾。

PP:大塚勇二	
P	RIDER M
1	小澤敏明 H
2	秋田貴志 Y
3	藤岡祐三 H
4	大塚勇二 H
5	高尾和弘 H
6	大崎誠之 H



Rd.2 SUGO

小澤がホールショットを奪い、レースをリード。これに仲城が続き、二人のマッチレースとなる。最終ラップまでバトルは続くが、仲城が小澤を抑えきり優勝を飾る。3位は菊池。

PP:鶴岡孝徳	
P	RIDER M
1	仲城英幸 H
2	小澤敏明 H
3	菊池寛幸 H
4	大塚勇二 H
5	菅谷慎一 H
6	大崎誠之 H



Rd.7 MINE

スタートから飛び出したのは菊池。これに酒井、大崎、小澤と続き、バトルを繰り広げる。菊池はラスト3周で再びトップに立ち、そのまま小澤と大崎を振り切り初優勝を飾った。

PP:酒井大作	
P	RIDER M
1	菊池寛幸 H
2	小澤敏明 H
3	大崎誠之 H
4	稲毛田潤 H
5	酒井大作 Y
6	菅谷慎一 H



Rd.3 TSUKUBA

ホールショットを奪ったのは小澤。これに大崎、天野、秋田、上江洲、小野、菊池と続く。最終ラップの最終コーナー入口で秋田が菊池をパスしうれしい全日本初優勝を達成した。

PP:秋田貴志	
P	RIDER M
1	秋田貴志 Y
2	菊池寛幸 H
3	大崎誠之 H
4	稲毛田潤 H
5	小澤敏明 H
6	小野真央 H



Rd.8 SUZUKA

序盤からトップ争いは10台以上の大集団となった。この中、トップに立った菊池だったが、トラブルでリタイア。この混戦を最後に制したのは秋田だった。2位に仲城、3位に藤岡。

PP:稲垣 誠	
P	RIDER M
1	秋田貴志 Y
2	仲城英幸 H
3	藤岡祐三 H
4	小野真央 H
5	高尾和弘 H
6	大崎誠之 H



Rd.4 SUZUKA

菊池が好スタートを見せレースをリードするが、エンジントラブルでリタイア。8台ものトップ争いを制したのは高尾だった。2位に小野が入りハルクプロが1-2を決めた。

PP:藤岡祐三	
P	RIDER M
1	高尾和弘 H
2	小野真央 H
3	秋田貴志 Y
4	岡田純一 H
5	酒井大作 Y
6	加藤 徹 H



Rd.9 TSUKUBA

予選でコースレコードをマークした菊池がスタートから飛び出し、そのまま独走で優勝。このクラスでは珍しいことだ。2位には井手が入り、初の表彰台をゲット。3位は仲城。

PP:菊池寛幸	
P	RIDER M
1	菊池寛幸 H
2	井出敏男 H
3	仲城英幸 H
4	秋田貴志 Y
5	小澤敏明 H
6	稲毛田潤 H



Rd.5 FISCO

ホールショットを奪ったのは岡田。トップ争いは大きな集団となり、目まぐるしく順位を入れかえる。このバトルは小澤が制し今季初優勝。14位までが2.8秒という激戦だった。

PP:仲城英幸	
P	RIDER M
1	小澤敏明 H
2	秋田貴志 Y
3	大崎誠之 H
4	依田裕章 H
5	菊池寛幸 H
6	高尾和弘 H



Rd.10 TI

菊池がまたもレースをコントロールした。予選で転倒し、ケガを押してのレースだったが、最後にスパートし、2連勝を飾った。これで秋田に10ポイント差と迫った。

PP:小澤敏明	
P	RIDER M
1	菊池寛幸 H
2	酒井大作 Y
3	井出敏男 H
4	藤岡祐三 H
5	小澤敏明 H
6	高尾和弘 H

中盤戦の第5戦FISCO、第6戦SUGOと2連勝したものの、後半戦に入って決定打に欠けたレースが続いている。しかし、小澤はここSUGOを得意とするライダーでもあり、最終戦での逆転に期待がかかっている。

そして、第2戦SUGOのウイナーである仲城英幸にも注目。1勝を挙げた後、マシンセッティング面で悩みを抱えていた仲城だが、第8戦鈴鹿、第9戦筑波と連続で表彰台に立ち、終盤戦に向けて調子は上向き。ランキング的には8位だが、要注目のライダーだ。94、95年と世界グランプリ参戦の経験を持ち、もう一度グランプリへの復帰の希望を持ちつつけている。チャンピオン争いをかき回してくれる存在となるだろう。

さらに、2勝をマークしているライダー

がもう一人いる。開幕戦と第4戦の鈴鹿で勝った高尾和弘だ。鈴鹿では圧倒的な速さを見せる高尾は、現在ランキング4位とチャンピオンの可能性はなくなったが、ランキング上位をねらった、最終戦の走りに期待がかかる。

そのほか、大崎誠之、酒井大作、藤岡祐三、稲毛田潤、小野真央、井手敏男といった有力なライダーがこのクラスには多数いる。そして、彼らがときには10台以上でトップ争いを繰り広げる。ゴールラインまでだれが勝つか分からない展開となるのがGP125クラスの決勝レースの特徴でもあるのだ。

そして、今回の最終戦にもう一人、有力なライダーがエントリーを表明している。全日本への参戦は1年ぶりとなる、昨年のこのクラスのチャンピオン、東雅雄だ。

ワンシーズンをグランプリで戦ってきた成果を日本のファンの前で披露してくれるはず。今回のチーム体制は、昨年まで全日本を共に戦ったチームフジワラからのエントリーとなる。

今シーズン初めて、ゼッケン1のマシンが全日本を走ることになる。チャンピオン争いの動向を含めて、東の走りには大きな注目が集まる。

125クラスのウイナーを予想することはなかなか困難な作業だ。実力の伯仲しているこのクラスは、だれが勝ってもおかしくない。10パーセント勾配をトップで上ってくるのはだれなのか？ タイトル争いのゆくえと共に、一瞬も気の抜けない接近戦のレースが展開されることは間違いのないだろう。



INT-GP125

だれが勝ってもおかしくない
 混戦のクラスと言われるGP125
 だが、ここ2戦では
 菊地寛幸が抜きん出た速さを見せ
 ポイントリーダーの秋田貴志に迫っている
 その差は10ポイント
 追う菊池に、追われる秋田
 そしてわずかに可能性を残している小澤敏明
 今回はこの3人の走りから目が離せない
 チャンピオンとなるのはだれだ!



2 仲城 英幸

ホンダRS125R
 Jhaレーシング

1968年9月6日生まれ。29歳。
 岐阜県出身。167cm/50kg/B型
 91年、国際A級に昇格。ランキン
 グ8位。92年、3位。93年、2位と
 なる。94年は世界グランプリにフ
 ル参戦。ランキングは11位。95年、
 ランキング9位。昨年より全日本
 に復帰し、ランキング2位となる。
 今年は日本グランプリでトップ争
 いに加わり3位に入賞する。だが、
 第3戦SUGOでこそ優勝するが、
 ノーポイントが多くランキングは
 低迷。しかし、実力はまぎれもな
 く世界レベルにあるライダーだ。



3 高尾 和弘

ホンダRS125R
 カストロールTEAMハルクプロ

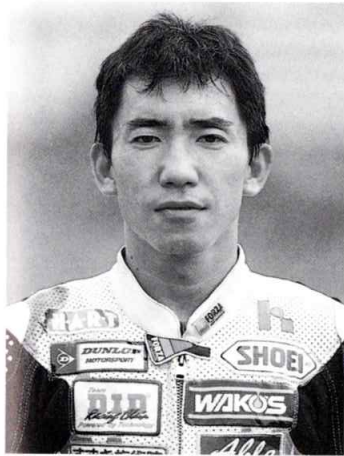
1968年5月19日生まれ。29歳。
 愛知県出身。165cm/51kg/A型
 93年、国際A級に昇格。いきなり全
 日本GP125クラスランキング7位
 となる。94年、10位。95年にチー
 ムハルクプロに移籍。ランキング4
 位にジャンプアップする。昨年は、雨
 のレースとなった第4戦鈴鹿で独走。
 全日本初優勝を達成する。この年は
 2勝を挙げランキング3位となる。
 今年は開幕戦、第4戦と優勝するが、
 第2戦、第3戦でのノーポイントが響き、
 タイトル争いから脱落。最終戦とな
 る今回の目標は“勝ち”のみだ。



4 小澤 敏明

ホンダRS125R
 ENDURANCE & 彩光

1970年3月21日生まれ。27歳。
 埼玉県出身。163cm/56.5kg/A型
 92年、国際A級昇格。ルーキーな
 がらランキング14位となる。93年、
 94年と低迷するが、95年はランキ
 ング6位とジャンプアップ。昨年はこ
 こSUGOでの初優勝を含む2勝を
 挙げチャンピオン争いを繰り広げるが、
 ランキング4位に終わる。今年は開
 幕戦で負傷。苦しい出だしたが、
 第5戦富士、第6戦SUGOと連勝を
 飾る。だがここ3戦、思うようなレー
 スができていない。今回は最後の“演
 出”を見せたいところだろう。



8 稲毛田 潤

ホンダRS125R
RT TUBE RIDERS & エイブルコミュニケーション

1966年7月12日生まれ。31歳。神奈川県出身。168cm/56kg/A型 89年、国際A級に昇格。全日本GP 125クラスを戦い、今シーズンが9年目。速さはあるが、なかなか結果に結び付けられずにいたが、94年にランキング8位。そして昨年、第2戦で3位に入賞。初めて表彰台に上がっている。安定感も増し、ランキング8位と自己最高位タイをマーク。飛躍をねらって臨んだ今シーズンだったが、ここまでは第3戦と第7戦での4位が最高位。一つでもランキングを上げたいところだろう。



9 藤岡 祐三

ホンダRS125R
M'-PROJECT

1973年5月2日生まれ。24歳。愛媛県出身。173cm/57kg/A型 93年に国際A級に昇格。全日本にデビューするが、転倒が多く、ノーポイント。94年は一転して、最終戦までタイトル争いを繰り広げる。惜しくもタイトル獲得とはいかなかったが、全日本初優勝を含む、ランキング2位となる。95年、96年とランキング9位。今シーズンはM'プロジェクトに移籍。第6戦SUGO、第8戦鈴鹿で3位に入賞。速さはあるだけに、レースをどう組み立てるかが、カギなのかもしれない。



15 酒井 大作

ヤマハTZ125
IKKO RACING TEAM

1982年3月12日生まれ。15歳。大阪府出身。168cm/55kg/A型 小学校5年生のときにSRS-JIに入校。95年の鈴鹿4時間耐久では山本琢磨と組み、見事に勝利を手に入れる。その後、TIでのエリア選手権で優勝。全日本出場資格を得ると、第7戦鈴鹿で全日本にデビュー。昨年はTIでの初優勝を含む、ランキング15位となる。今季は、IKKO RACINGに移籍。マシンもTZにスイッチ。序盤こそ、歯車がかみ合わなかったが、前は2位に入賞。本来の速さを発揮するようになってきている。



10 菊地 寛幸

ホンダRS125R
RT TUBE RIDERS & エイブルコミュニケーション

1965年8月3日生まれ。32歳。京都府出身。167cm/51kg/B型 93年、国際A級昇格。全日本GP 125クラスにデビュー。ランキング4位となる。94年、ランキング9位。95年は世界グランプリに参戦するが、思うような成績が残せなかった。昨年より全日本に復帰し、ランキング10位となる。今年はTUBER&Ablecomに移籍。第7戦MINEで念願の初優勝を飾る。第8戦こそトラブルに見舞われるが、第9戦筑波、第10戦TIと2連勝。ランキングも2位に上がり、逆転チャンピオンを狙っている。



17 秋田 貴志

ヤマハTZ125
TEAM 伸興産業 JRacing

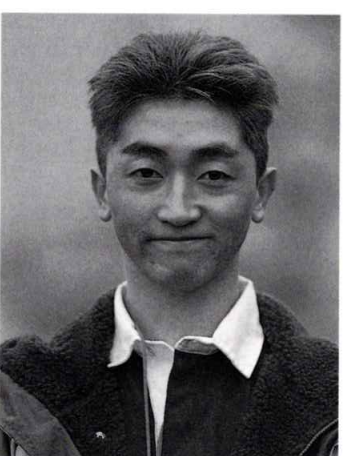
1974年2月2日生まれ。23歳。神奈川県出身。164cm/53kg/A型 93年にスーパーカップイースタンGP 125クラスでチャンピオンに輝く。94年に全日本デビュー。ランキング11位。95年、29位、96年、17位。今シーズンからJLRレーシングに移籍しTZ125にスイッチ。第3戦筑波ではポールtoフィニッシュで全日本初優勝を達成。その後、第8戦鈴鹿でも激戦を制し2勝目を挙げている。第4戦でポイントリーダーに立つと、その座を守っている。現在、チャンピオンに最も近いライダーだ。



11 大崎 誠之

ホンダRS125R
Team ASA テクノギルドRT

1971年3月8日生まれ。26歳。大阪府出身。163cm/53kg/A型 93年、スーパーカップウエスタンGP 125クラスチャンピオンを獲得。94年に国際A級昇格しランキング23位。95年、14位。昨年は、第6戦SUGOで初めて表彰台に上る。ランキングは11位。今年は常にトップ争いを繰り広げ、優勝まであと一歩と迫っている。ここまでは第3戦、第5戦、第7戦で3位に入賞。前回もトップグループを走りながら転倒。今シーズンも今回が最終戦。初優勝を実現したいところだろう。



19 小野 真央

ホンダRS125R
カストロール TEAM ハルクプロ

1972年6月9日生まれ。25歳。栃木県出身。167cm/49kg/A型 90年に全日本にデビューしランキング3位。91年には、見事にチャンピオンに輝く。92年はランキング2位となるが、93年より世界グランプリに戦いの場を移す。しかし、第3戦スペインで選手生命を危ぶまれるほどの大ケガを負ってしまう。翌94年に復帰するが、またもケガに泣かされる。95年より全日本に復帰。今季は、第4戦での2位が最高位だが、ノーポイントも多しランキングは10位。ひとけたに入れておきたいところだ。



最強レプソルホンダ日本上陸 一矢を報いたいヤマハ、スズキ

ロードレースの最高峰クラス、それがGP500クラスだ。200馬力近いパワーのエンジンを持ちながら、車重はわずか130kgほどしかない。コースによっては300km/hに達する最高速。軽くスロットルを開けただけでフロントタイヤは宙をさまよひ、リアタイヤは激しくスライドを始める。そんなモンスターマシンを、限界走行でコントロールするライダーには、ロードレースライダーとして最高レベルのライディングテクニックが要求されることはいうまでもない。SUGOのホームストレートを疾走するマシンを感じてもらえば分かるが、とにかく迫力が違う。

現在では、全日本選手権でGP500クラスは開催されていないため、国内でGP500の走りが観戦できるのは、鈴鹿の日本GPと、今回のこの大会のみとなってしまった。貴重なレースだけに、じっくりと500の生の迫力を味わってほしい。

さて、今シーズンの世界グランプリでは、レプソル・ホンダのエース、マイケル・ドゥーハンが4年連続チャンピオンを獲得した。しかし、王者ドゥーハンに

とって、今シーズンは思いがけないレースが展開されたシーズンともなった。日本人ライダーの活躍である。今シーズンの世界GP500クラスには、4名の日本人ライダーが参戦。今回のTBCビッグロードにはその内3名が出場する。

その筆頭が、第14戦インドネシアGPで、ドゥーハンを正面から破って初優勝を達成した岡田忠之。岡田は昨年のTBCビッグロードレースでも、VツインのNSR500Vを駆って優勝している。今シーズンからは、念願のV4NSR500を駆り、グランプリでは表彰台の常連となり、世界ランキング2位でシーズンを終了している。

そして、最終戦のオーストラリアGPで2位入賞したのが青木拓磨。青木は今シーズンからグランプリに参戦、マシンは岡田の後を受けてVツインのNSR500Vで戦っている。また、同じくオーストラリアGPで3位に入賞した阿部典史は、96年の日本GPで優勝した経験を持ち、激しくマシンをスライドさせる走法で、見ていてワクワクする走りをしてくれるライダー。今シーズンはマシン

のセッティングが決まらず、やや不調だったが、ここSUGOでは燃えている。

さらに今回はエントリーしていないものの、今年から500に参戦した青木宣篤は4回表彰台に立ち、ランキング3位に輝いた。来シーズンはスズキのワークスチームへの移籍が予定されている。

国内からのエントリーでは、ヤマハから97全日本スーパーバイクチャンピオンの芳賀紀行が500クラス初挑戦。ベテラン藤原儀彦も参戦する。ラッキーストライク・スズキの加賀山就臣は、世界グランプリ最終戦にスポット参戦し7位入賞の実績を持ち、今回は250クラスとのダブルエントリーとなる。

さらに、今シーズンは中盤戦の負傷欠場により世界ランキング4位となったレプソル・ホンダのアレックス・クリビエ、97年ワールドスーパーバイクチャンピオンで、来シーズンは500への復帰がうわさされているジョン・コシンスキー、レッドブル・ヤマハのカーク・マッカーシーなど世界のトップライダーがSUGOに集結。激しいバトルが展開されることは必至だ。



'97世界選手権シリーズGP500クラス ポイントテーブル

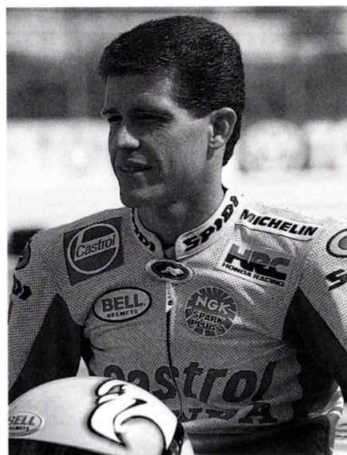
Ps	Rider	PTS	MAL	JPN	SPN	ITA	AUT	FRA	NED	ITA	GER	BRA	GBR	CZE	SPA	IDN	AUS
1	M.ドゥーハン	340	25	25	20	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	20	
2	岡田忠之	197	6	16	16		20	16	4	11	20	20	20		10	25	13
3	青木宣篤	179	16	11	11	16	13		13	20	13	13	13	16	11	13	
4	A.クリビエ	172	20	20	25	13	11		13					13	16	16	25
5	青木拓磨	134	11	13	13				11	16	16		6	10	9	9	20
6	L.カダローラ	129	13	5	5	20	16			10		16	11	20	13		
7	阿部典史	126	8	9	9	9	7	9	6	9		11	7	11	4	11	16
8	C.チェカ	119	10	10			10	20	20	13					20	10	6
9	A.バロス	101	5	6	8	10	3	10	10	7	10		16	8			8
10	S.ロンボニ	88			10	5	6	5	16		11	9	9		6	6	5
11	D.ビーティー	63			4	11	5	4	9	3	4	3	10	6		4	
12	A.プーチ	63	9	8			8	8	11	4	6	2		3	1	2	1
13	S.ジベルノー	56	7		7	7		3		5	9					8	10
14	R.ラコーニ	52	4	4	6	6						7		9	5		11
15	A.ゴバート	44				3	9	6	3	6	7	6		4			

Ps	Constructor	PTS	MAL	JPN	SPA	ITA	AUT	FRA	NED	IMO	GER	BRA	GBR	CZE	CAT	INA	AUS
1	HONDA	375	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
2	YAMAHA	188	13	9	9	20	16	9	6	10	9	16	11	20	13	11	16
3	SUZUKI	90		3	4	11	9	6	9	6	7	6	10	6		4	9
4	APRILIA	88			10	5	6	5	16		11	9	9		6	6	5
5	MODENAS KR3	68		2	3	8	2		8	8		8	5	7	8	7	2
6	ELF 500	60	2				4	7	7	2	8	10	8		7	5	
7	ROC YAMAHA	12			1	2	1			1	1	4		2			



GP500 SUPERBIKE JAPAN

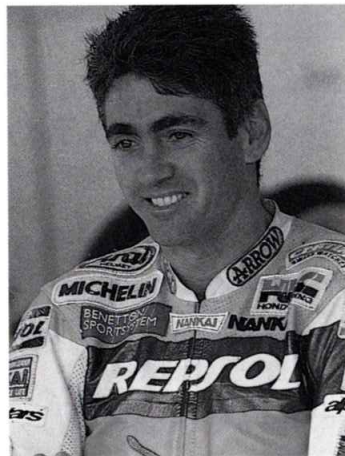
世界最高峰のクラス
それが500ccクラスだ
15戦中12勝という圧倒的な強さを見せ
4連覇を達成したマイケル・ドゥーハンを始め
そのドゥーハンに土をつけた岡田、クリビエを
擁する最強のレプソルホンダ軍団
昨年の全日本SBチャンプ青木拓磨
そして、WSBチャンプとなった
コシンスキーも登場
もちろんノリックVS紀行のノリノリ対決も要注目だ



01 ジョン・コシンスキー

ホンダNSR500
Castrol HONDA

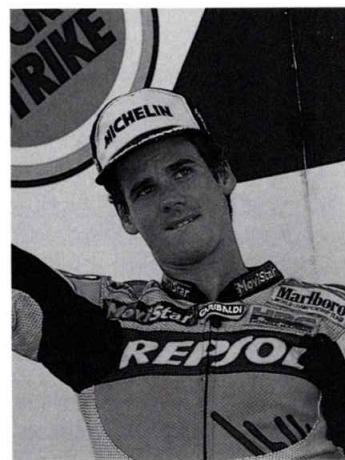
1968年3月20日生まれ。29歳。
アメリカ出身。
90年、世界グランプリ250ccクラスチャンピオンに輝く。91年より500ccクラスまでステップアップ。ランキング4位となる。92年はランキング3位。速さはあるが、特異な言動で問題も多かった。93年にはスズキワークスで250ccクラスに戻るがシーズン途中で解雇される。その後、カジバで活躍するが、撤退とともに、グランプリを離れていた。そして今年WSBチャンピオンに輝き、いよいよ来年WGPに復帰する可能性が大だ。



1 マイケル・ドゥーハン

ホンダNSR500
REPSOL HONDA

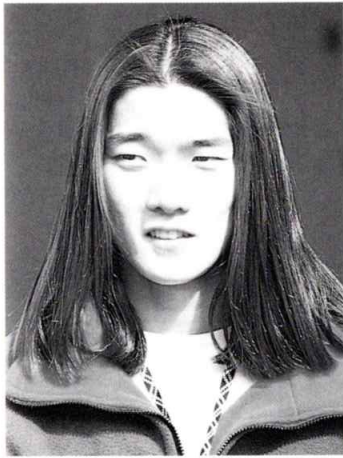
1965年6月4日生まれ。32歳。
オーストラリア出身。
88年、オーストラリアスワンシリースランキング2位。89年よりロスマンズホンダ入りし、世界グランプリにデビュー。ランキング9位となる。90年には初優勝を含むランキング3位となる。91年、ランキング2位。92年はシーズン中盤まで圧倒的な強さでリードするが、ケガに泣きタイトルを逃す。そして94年に念願のチャンピオンに輝くと今年まで4連覇を達成。歴代優勝回数でもアゴスティニに次ぐ記録を保持している。



2 アレックス・クリビエ

ホンダNSR500
REPSOL HONDA

1970年3月4日生まれ。27歳。
スペイン出身。
88年、WGP80ccクラスランキング2位。89年WGP125ccクラスチャンピオン。90年WGP250ccクラスランキング11位。91年同クラス13位。92年より500ccクラスにステップアップ。1勝を含むランキング8位となる。その後、着実に速さを身につけていく。94年にホンダワークス入り。昨年はドゥーハンと対等の走りを見せランキング2位。今年も第3戦で優勝するが、オランダGPでのケガが響きランキング4位に終わる。



5 阿部 典史

ヤマハYZR500
YAMAHA TEAM RAINEY

1975年9月7日生まれ。22歳。
東京都出身。
93年、国際A級昇格。全日本GP
500クラスに参戦。いきなりチャン
ピオンを獲得。94年の日本GPに
スポット参戦し、シュワツツ、ドゥー
ハンとトップ争いを展開。転倒に終
わるが、強烈な印象を残し、その年
の後半にチームロバーツ入りする。
95年はWGPにフルエントリー。ラン
キング9位となる。そして96年は
日本GPでの初優勝を含むランキン
グ5位となった。今年はランキング
7位。アグレッシブな走りが魅力的だ。



7 岡田 忠之

ホンダNSR500
REPSOL HONDA

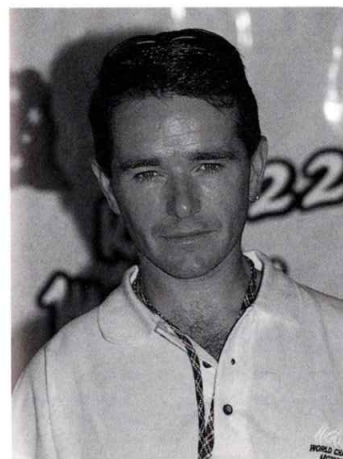
1967年2月13日生まれ。30歳。
茨城県出身。
88年、国際A級昇格。89年、大逆転
でGP250クラスチャンピオンに輝く。
その後、91年まで3連覇を達成。92
年は原田哲也に破れランキング2位
となるが、岡田VS原田のバトルは見
応えのあるものだった。93年よりW
GP250ccクラスにフル参戦。翌94
年は最終戦までタイトルを争うが、ラン
キング2位に。96年から500cc
にステップアップ。NSR500Vを駆
りランキング7位。今年のインドネシ
アGPでクラス初優勝を飾った。



31 藤原 儀彦

ヤマハYZR500
Marlboro YAMAHA

1966年10月8日生まれ。31歳。
神奈川県出身。
87年から89年まで全日本GP
500ccクラス3連覇。90年、91年、
同クラスランキング2位。92年、
93年、同クラスランキング3位。全
日本GP500ccクラスの休止を受け、
94年からスーパーバイククラスに
スイッチ。ランキング4位となる。
95年、ランキング5位。96年、ラン
キング3位。87年から昨年まで、毎
年優勝を記録。今シーズンは開発を
主に、日本GP、ル・マン24時間耐久、
ポルドルール24時間耐久に参戦した。



22 カーク・マッカーシー

ヤマハYZR500
WCM-YAMAHA

1968年11月19日生まれ。28歳。
オーストラリア出身。
90年、オーストラリアプロダクション
250ccクラスに参戦。93年にスー
パーバイククラスにステップアップ。
ランキング5位。94年はランキング
4位。95年にはチャンピオンに輝く。
そして96年はスズキワールドスー
パーバイクチームに抜擢される。だが、
思うような成績を残せずランキン
グ13位となる。今年からWGPに
デビュー。当初はROCヤマハを駆っ
ていたが、コーサーの離脱により途
中からYZRをライディングした。



41 芳賀 紀行

ヤマハYZR500
YAMAHA RACING TEAM

1975年3月2日生まれ。22歳。
愛知県出身。
今シーズン7勝を挙げ、第9戦筑波
で全日本スーパーバイクチャンピオ
ンに輝いた芳賀紀行。WSB最終戦
インドネシアラウンドにもスポット
参戦し、5位/3位という結果を残
した。500ccのレースは今回が初
めて。本人も将来的に世界グラン
プリへの参戦を希望しており、今回
の走り次第では、来シーズンのWGP
参戦の可能性もあるかもしれない。
500ccでどんな走りを見せるか注
目が集まるどころだ。



26 加賀山 就臣

スズキRGV1 500
ラッキーストライク・スズキ

1974年5月7日生まれ。23歳。
神奈川県出身。
94年に国際A級に昇格。そのころ
からスズキワークスで500ccの開
発ライダーを担当している加賀山。
昨年のこの大会が初めての実戦と
なったが、オープニングラップに他
車と接触し転倒。あつと言う間にリ
タイアに終わってしまった。だが、今
年の世界グランプリ最終戦オース
トラリアGPにエントリー。8台で争わ
れた4位争いに加わり7位でフィニ
ッシュしている。ライダーとしてのポ
テンシャルの高さを証明して見せた。



78 青木 拓磨

ホンダNSR500V
ウルトラマン・ホンダ

1974年3月24日生まれ。23歳。
群馬県出身。
91年、国際A級昇格。全日本GP
250クラスに参戦。92年、ランキ
ング4位。93年はワークスマシ
ンを手に入れ、ランキング2位に。94
年よりスーパーバイククラスにス
イッチ。ランキング2位となる。95年、
96年と2年連続で全日本スーパ
ーバイクチャンピオンに輝く。そして
今シーズンよりNSR500Vで念願
の世界グランプリにフルエントリー。
2位1回、3位2回と3度表彰台に上
がり、ランキング5位と健闘した。



ゼッケン	予選区分	予選順位	決勝順位	ライダー名	年齢	所属県	マシン	チーム名
2	B			梁 明	30	兵庫	K-ZX-7RR	カワサキレーシングチーム
4	B			北川 圭一	30	静岡	S-GSX-R750	ラッキーストライク.スズキ
5	A			藤原 克昭	22	静岡	S-GSX-R750	ラッキーストライク.スズキ
6	A			武石 伸也	30	北海道	K-ZX-7RR	カワサキレーシングチーム
8	A			芳賀 紀行	22	愛知	Y-YZF750	Marlboro YAMAHA
11	A			芹沢 太麻樹	25	埼玉	S-GSX-R750T	ヨシムラ・スズキ・GP1プラス
12	B			塚本 昭一	37	兵庫	K-ZX-7RR	カワサキレーシングチーム
14	A			井筒 仁康	26	東京	D-916	チーム・ファンデーション
16	A			鶴田 竜二	31	愛知	K-ZXR750R	K-TSURUTAレーシング
17	A			長谷川 克憲	29	千葉	Y-YZF750	PJ1 MAX & RC SUGO
20	A			吉川 和多留	29	東京	Y-YZF750	Marlboro YAMAHA
21	B			鎌田 学	27	北海道	H-RVF/RC45	Team 桜井ホンダ
24	A			泉名 英男	32	埼玉	H-RVF750R	向陽会ドリームレーシングチーム
25	A			小林 敏也	30	滋賀	H-RVF750R	teamELAN & RGniwa
29	B			原口 祐二	29	三重	H-RVF/RC45	爽風会・鈴鹿レーシングチーム
30	B			青柳 幸広	26	大阪	Y-YZF750	SWIFT・R・MOTUL
31	B			中谷 真也	27	大阪	K-ZX-7RR	チーム阪神ライディングスクール
32	A			小野寺 康浩	29	宮城	D-888	ITA & ナオエマシナリー ライディーン倶楽部
33	A			山中 正之	29	神奈川	H-RVF/RC45	レーシングチーム ハニービー
34	B			深見 貴広	27	愛知	Y-YZF750	クレバーウルフレージングチーム
35	B			井村 和弘	25	京都	K-ZXR750R	Castrol・チームボンバー
37	A			筒井 秀明	30	埼玉	K-ZX-7RR	MRD T-CRAFT
38	B			新垣 敏之	32	沖縄	H-RVF/RC45	TEAM VITAL SPIRIT
41	A			宗和 孝宏	32	兵庫	H-RVF/RC45	K'sGARAGE SOHWA
45	B			武田 雄一	19	埼玉	H-RVF/RC45	Castrol HONDA
46	A			吉広 敦	31	栃木	H-RVF/RC45	CLUBNEXT & 七星科学研究所 & MKC

'97MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第11戦

決勝スタート/11月2日

周回数/25周

レース距離/93.4375km

●これまでのコースレコード

1分30秒357 1997年4月26日

'97全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦

武田雄一/ホンダRVF/RC45

INT SB SUPER BIKE

ゼッケン	予選区分	予選順位	決勝順位	ライダー名	年齢	所属県	マシン	チーム名
47	B			佐藤清和	30	栃木	H-RVF/RC45	Takada Eng ATS
48	A			鈴木孝之	31	栃木	H-RVF750	ブルーヘルメットPGレーシング
50	B			松原泉	29	埼玉	K-ZX-7RR	RS-ITOH & 酒巻クリニック
51	A			太田寛	28	埼玉	H-RVF750	ホンダブルーヘルメットMSC
52	B			柳賢一	31	群馬	K-ZXR750R	Team Shirota
53	A			安孫子勝利	37	北海道	H-RVF750	NISSEKI & チームにゃろめ
54	B			蒔田正康	33	福島	H-RVF/RC45	カセツ産業(株)岩手マイカーリース
55	B			中村健一郎	29	茨城	H-RVF/RC45	ホンダブルーヘルメットMSC
56	A			谷口仁	34	栃木	Y-YZF750SP	コンパニオンフレンド & モト片柳
57	B			下田賢一	29	東京	K-ZX-7RR	チームMSL & リーフ・エンジン
58	A			山本琢磨	19	兵庫	K-ZX-7RR	TEAM GREEN
59	B			渡辺克也	33	岩手	H-RVF750	レーシングチームBIG.BOX
60	A			水澤保	28	滋賀	K-ZX-7RR	グリーンクラブ & 山科カワサキ
61	B			前嶋秀典	30	東京	H-RVF/RC45	明和レーシングクラブ
62	A			佐々木栄司	30	静岡	S-GSX-R750	JAJA TEAM タイタン
63	B			大崎隆一	29	千葉	S-GSX-R750	ミクニー-TELLY & KALLY
64	A			平野雅巳	31	東京	Y-YZF750SP	RS-OKUNO & JLS. Castrol
67	B			中澤敬一	31	宮城	K-ZX-7RR	遠藤輪業RT & スペースアート
71	A			腰山勝仁	26	東京	H-RVF750	Team 桜井ホンダ
72	B			伊藤真一	30	宮城	H-RVF/RC45	Castrol HONDA
75	B			安西和人	29	神奈川	H-RVF750	ガレージ湘南
76	A			中村保	27	東京	Y-YZF750	RS・カタクラ/YSP八王子南
77	B			秋吉弘亮	22	静岡	S-GSX-R750	ラッキーストライク.スズキ
78	B			藤林勝士	26	東京	Y-YZF750	サバカレー & スガヤスピードRT
89	A			青木朋直	23	山口	S-GSX750R	ライダーズキャビンRT & キデン
771	B			中村義彦	23	宮城	Y-YZF750	エフエム仙台レーシングチーム



INT-CP250



ゼッケン	予選区分	予選順位	決勝順位	ライダー名	年齢	所属県	マシン	チーム名
2	A			加藤大治郎	21	埼玉	H-NSR250	Castrol HONDA
3	B			芳賀健輔	24	愛知	Y-YZR250	Marlboro YAMAHA
5	A			松戸直樹	24	千葉	Y-TZ250	コンパイルレーシングヤマハ
6	B			亀谷長純	20	静岡	S-RGV-1'250	JAJA RACING.TEAM
8	A			小倉直人	28	新潟	Y-TZ250	IKKO RACINGTEAM
11	B			加賀山就臣	23	静岡	S-RGV-1'250	JAJA RACING.TEAM
12	B			森兼正明	29	埼玉	H-NSR250	ENDURANCE
13	A			関口太郎	21	東京	Y-TZ250	YESSレーシングチーム
14	A			玉田誠	20	愛媛	H-RS250R	Team 高武RSC
15	A			野田弘樹	27	奈良	H-RS250R	NUTS & H・I・T
17	B			原田伸也	25	千葉	Y-TZ250	SP忠男レーシングチーム
18	B			榊原礼視	26	大阪	Y-TZ250	チームモトスペースTODAYA
19	B			及川誠人	26	神奈川	Y-TZ250	スポーツライダー & KISS R.T.
20	A			浅井一朗	24	宮城	Y-TZ250	Team ita
22	B			尹昌憲	24	愛知	H-RS250R	TEAM 花菱・KOHSAKA
30	A			戸田隆	34	東京	H-RS250R	スーパービルドマキシマムRT
32	A			中川直史	24	三重	H-RS250R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム
35	B			石井孝之	28	千葉	Y-TZ250	ミクニ、クラブベンティスRP
36	A			長岡俊宏	26	兵庫	Y-TZ250	HITMAN RC甲子園 ヤマハ
37	B			薄井誠	31	東京	H-RS250R	レーシングチーム タクミ
39	B			池上賢一	26	栃木	H-RS250R	TEAM・i-FACTORY
44	A			甲府方周二	25	東京	Y-TZ250	プレイメイトレーシング東京
45	A			中富伸一	19	福岡	H-RS250R	Team 高武RSC
46	B			富岡裕昭	33	群馬	Y-TZ250	オールマン & MOTUL
47	A			小口亘	30	千葉	Y-TZ250	ALLMAN & MOTUL 郁栄会
48	B			大橋智広	31	福島	Y-TZ250	Team Ita & F
50	A			小口理	30	新潟	Y-TZ250	ALLMAN & MOTUL
51	A			佐藤慎也	26	神奈川	H-RS250R	ライダーズサロン横浜 BP
52	B			小林健次	27	埼玉	H-RS250R	明和レーシングクラブ
53	A			喜多田学	24	千葉	H-RS250R	テクニカルスポーツ関東
54	B			竹中伸浩	33	東京	Y-TZ250	ペンタグラム & Agip
55	A			水野生久	28	愛知	Y-TZ250	Support Racing
56	A			中野真矢	20	千葉	Y-YZR250	ヤマハ・レーシング・チーム
57	A			安斎勝章	26	福島	Y-TZ250	チーム ハイブリッジ
58	B			安斉信男	25	福島	Y-TZ250	Y'zエンジニアリング & MOTUL
59	A			小玉孝也	29	宮城	Y-TZ250	日石.MIZTEC & 森のくまさん
60	B			興梠義則	25	三重	H-RS250R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム
61	A			田中大輔	28	愛知	Y-TZ250	TEAM YDS YAMAHA
62	B			金沢伸也	26	東京	Y-TZ250	Team YSP 町田中央
63	A			土井征哉	26	埼玉	Y-TZ250	

'97MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第11戦

決勝スタート/11月2日

周回数/20周

レース距離/74.75km

●これまでのコースレコード

1分31秒541 1997年4月26日

'97全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦

加藤大治郎/ホンダNSR250

INT GP250

ゼッケン	予選 区分	予選 順位	決勝 順位	ライダー名	年齢	所属県	マシン	チーム名
64	B			大山 真	23	愛知	Y-TZ250	モト・ミット & YSP岡崎中央
65	A			斉藤 克己	30	福島	Y-TZ250	喰いしんぼう & 高木AT米ワールド
66	B			大串 晶彦	30	東京	Y-TZ250	トシテック & YSPつくば学園
67	A			更科 裕樹	31	宮城	Y-TZ250	MOTO FAST RT 根岸オート出光
68	B			清水 潤也	26	埼玉	Y-TZ250	スポーツライダー & ミヤムラRT
69	A			吉野 昌弘	26	東京	H-RS250R	Cruise & Arai & DL
70	B			根本 健司	24	宮城	H-RS250R	クルーズRT & モト専科
71	A			吉沢 隆	28	神奈川	Y-TZ250	ペンタグラム with Agip
72	B			高橋 孝浩	25	東京	Y-TZ250	YSP東小金井 & CISC
73	B			澤田 令	20	愛知	H-RS250R	TEAM-SRS・J
74	A			小田切 紀和	30	埼玉	H-RS250R	ホンダむさしの会狭山レーシング
75	B			加藤 健治	24	東京	H-WM07A	With me P・R・T
76	B			鈴木 淳雄	32	福島	Y-TZ250	パイロット齒研&高木AT&喰いしんぼう
77	A			赤木 哲也	26	静岡	H-RS250R	ホンダ浜友会浜松エスカルゴ
78	B			新田 一美	30	東京	Y-TZ250	Pentagram & Agip
79	A			仲地 万寿夫	27	東京	H-RS250R	モトバム レオス レーシングチーム
80	B			武山 祐介	26	宮城	Y-TZ250	
81	A			雨宮 浩二	27	新潟	Y-TZ250	ぐらんぷり & ROMANCE
82	B			武内 進	28	東京	Y-TZ250	ミクニ・クラブベンティスR.P
83	B			水谷 茂	29	神奈川	Y-TZ250	スポーツライダー & BP
84	A			山下 裕介	20	兵庫	Y-TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ
85	B			竹下 敦	27	東京	H-RS250R	レオスファニーWINGオクムラ
86	B			宮地 泰輔	29	東京	Y-TZ250	ミクニ・クラブベンティスRP
87	A			芒崎 孝幸	24	神奈川	H-RS250R	モトバムレオスレーシング
88	B			末続 仁厚	27	神奈川	H-RS250R	ペンタグラム + Agip
89	A			入野 博昭	26	埼玉	Y-TZ250	スポーツライダー & KISSR.T
90	B			池田 光秀	29	栃木	H-RS250R	オートテクニック スポーツ
91	A			須貝 義行	31	宮城	Y-TZ250	SP忠男レーシングチーム
92	B			佐藤 幸志	25	宮城	Y-TZ250	アベスピード With スガヤ
93	B			山口 辰也	21	埼玉	H-RS250R	TEAM HARC-PRO
94	A			上田 俊昭	25	東京	Y-TZ250	MS梶ヶ谷レーシング
95	B			安達 壇	25	東京	H-RS250R	HYSTERIC・HIRYU R
96	A			小野寺 貴行	25	宮城	Y-TZ250	NISSEKI・MIZTEC & 森のくまさん
97	A			永山 誠	24	静岡	H-RS250R	ホンダ浜友会浜松エスカルゴ
98	B			星野 誠	33	静岡	Y-TZ250	WIN JACK & WAKO'S + BS
99	A			田村 則夫	31	神奈川	Y-TZ250	ツツミモータース 2F
100	B			上田 浩矢	26	東京	H-RS250R	Team-RyOX & OX'S
101	A			江口 謙	24	神奈川	Y-TZ250	SP忠男レーシングチーム
102	A			団 和仁	24	大阪	H-RS250R	MAXIMA BADBOYRT
103	B			黒川 武彦	34	栃木	H-RS250R	ピザラ & i-FACTORY



INT-GP125

ゼッケン	予選区分	予選順位	決勝順位	ライダー名	年齢	所属県	マシン	チーム名
1	B			東 雅 雄	26	高 知	H-RS125R	チーム フジワラBP
2	A			仲 城 英 幸	29	奈 良	H-RS125R	Jhaレーシング
3	A			高 尾 和 弘	29	愛 知	H-RS125R	カスタロールTEAMハルクプロ
4	B			小 澤 敏 明	27	埼 玉	H-RS125R	ENDURANCE & 彩光
7	C			上 江 洲 克 次	22	愛 知	Y-TZ125	TEAM 伸興通産 J Racing
8	C			稲 毛 田 潤	31	神奈川	H-RS125R	RT TUBE RIDERS & イブルコミュニケーション
9	B			藤 岡 祐 三	24	愛 媛	H-RS125R	M'-PROJECT
10	B			菊 池 寛 幸	32	京 都	H-RS125R	RT TUBE RIDERS & イブルコミュニケーション
11	C			大 崎 誠 之	26	福 岡	H-RS125R	TeamASA テクノギルド RT
13	C			大 塚 勇 二	28	神奈川	H-RS125R	ENDURANCE
15	A			酒 井 大 作	15	大 阪	Y-TZ125	IKKO RACING TEAM
17	A			秋 田 貴 志	23	神奈川	Y-TZ125	TEAM 伸興通産 J Racing
19	B			小 野 真 央	25	栃 木	H-RS125R	カスタロール TEAM ハルクプロ
20	B			天 野 邦 博	27	東 京	H-RS125R	戦国 & MOTO ZAP
21	A			久 保 和 寛	26	京 都	Y-TZ125	HITMAN RC甲子園ヤマハ
22	B			岡 田 純 一	23	京 都	H-RS125R	Jhaレーシング
24	A			亀 田 勝 太	26	栃 木	H-RS125R	i-FACTORY & PSR
25	B			伊 東 哲	29	東 京	H-RS125R	チーム アクタス
26	B			菅 谷 慎 一	25	東 京	H-RS125R	アリス・レーシングプロジェクト
27	C			松 永 弘 志	24	千 葉	H-RS125T	テクニカルスピード
29	A			西 山 康 典	24	宮 城	H-RS125R	クルーズレーシングチーム
30	B			横 江 竜 司	19	宮 城	Y-TZ125	SP忠男レーシングチーム
31	C			中 村 実	26	宮 城	H-RS125R	TJC.レオス & アリス
32	A			永 田 健 二	27	三 重	H-RS125R	HARC-PRO & AZUMA
33	C			榊 原 浩 二	29	愛 知	Y-TZ125	Support Racing
34	C			鷓 飼 孝 徳	28	三 重	H-RS125R	PENSION☆OZ-RGニワ
36	A			山 下 祐 祐	29	神奈川	H-RS125T	サムシステムテクニカルスピード
37	A			吉 川 和 宏	31	東 京	H-RS125R	Fine & ビーンズ R-T
38	B			城 戸 謙 二	20	埼 玉	H-RS125R	HARC-PRO & AZUMA
40	C			鈴 木 健	26	埼 玉	Y-TZ125	プレイメイトレーシング 東京
41	C			上 野 秀 昭	31	愛 知	H-RS125R	ガレージウエノチームカツラガワ
42	A			渡 部 伸	26	埼 玉	H-RS125R	ホンダブルーヘルメットMSC
43	B			大 橋 賢	23	三 重	H-RS125R	テクニカルスポーツ
44	B			早 原 邦 顕	27	三 重	H-RS125R	CLUB 三和総合RS
46	A			依 田 裕 章	25	神奈川	H-RS125R	RT TUBE RIDERS & イブルコミュニケーション
48	A			井 手 敏 男	27	大 阪	H-RS125R	チーム ウイリー
49	C			大 石 義 次	26	東 京	Y-TZ125	EAST CORE ヤマハ
50	B			松 浦 光 利	27	奈 良	Y-TZ125	YSP津山レーシングチーム
51	C			大 西 実	25	大 阪	H-RS125R	TEAM ばわあくらふと
52	A			山 内 聡 司	26	大 阪	H-RS125R	ガレージウエノ & RSALレザー
53	B			小 島 崇 志	30	新 潟	H-RS125R	TEAM KANEYASU
54	C			久 山 綾 一	25	栃 木	H-RS125R	オートテック スポーツ
55	A			竹 才 八 里	27	大 阪	Y-TZ125	TEAM ばわあくらふと
56	B			野 村 幸 仙	28	高 知	H-RS125R	チーム フジワラBP
57	C			高 野 悟	21	福 島	Y-TZ125	チーム・ハイブリッジ
58	A			高 田 孝 慈	34	大 阪	H-RS125R	TEAM竹島 KアンドT
59	C			川 瀬 誠	24	神奈川	H-RS125R	Dinky & 加賀山建具店W☆O
60	B			安 那 宏 昌	26	広 島	H-RS125R	SPIRIT SPORTS
61	C			吉 道 竜 也	29	北 海 道	H-RS125R	テクニカルモーター-ENDO
62	A			笹 島 義 久	29	神奈川	H-RS125R	RT TUBE RIDERS & EIKOH

INT GP125

ゼッケン	予選区分	予選順位	決勝順位	ライダー名	年齢	所属県	マシン	チーム名
63	B			星野知也	24	神奈川	H-RS125R	テクニカルスピード
64	C			中野健二	22	埼玉	H-RS125R	モト-LIS-A with ヒロ
65	A			杉山健二	32	山梨	H-RS125R	WIN-JACK & WAKO'S + BS
66	A			武藤しんじ	32	愛知	H-RS125R	RTタイムリー & Dinky
67	B			福田たかお	28	栃木	H-RS125R	モトハウス マツモト
68	C			平間司	24	宮城	H-RS125R	TOGO & JUN ² with タモッチ!
69	A			渡貫忠	32	茨城	H-RS125R	Fine Racing
70	B			民哲三	28	茨城	H-RS125R	フォルムアミューカズ
71	C			東敬太	32	東京	H-RS125R	RT TUBE RIDERS & イイブルコミュニケーション
72	C			小池祐美	27	宮城	H-RS125R	Team Hiro'K
73	A			猪瀬修	27	栃木	H-RS125R	TEAM・i-FACTORY
74	B			寺林拓実	28	東京	H-RS125R	カストロールTEAMハルクプロ
75	C			赤間清	30	神奈川	H-RS125R	HARC-PRO & AZUMA
77	A			松井剛	29	東京	H-RS125R	M-TUNE Racing
78	B			山崎敏夫	30	千葉	H-RS125R	M-TUNE Racing
79	C			志賀寿光	32	東京	H-RS125R	RT ヴィラージュ
80	A			宮崎努	26	高知	H-RS125R	チーム フジワラBP
81	B			掘智治	29	東京	H-RS125R	チームSP-JUBET-SP3
82	C			上木聡	27	大阪	H-RS125R	TEAM 竹島 KアンドT
83	A			渡辺裕司	29	神奈川	H-RS125R	Dinky & Able com'
84	B			稲垣誠	22	三重	H-RS125R	FCCテクニカルSとアケノスピード
85	C			深井一城	29	神奈川	H-RS125R	サンエイレーシング & フォルザ
86	A			中島一樹	23	千葉	H-RS125R	Fine Racing
87	B			井形とも子	31	茨城	H-RS125R	team Hirock!
88	A			山田実	32	千葉	H-RS125R	Fine Racing
89	C			今野由寛	17	千葉	H-RS125R	桶川スポーツランド
90	A			中田健二	30	奈良	H-RS125R	BadBoy RTMAXIMA
91	B			古橋徹	25	埼玉	H-RS125R	モトバム レオス
92	C			市川亨	33	千葉	H-RS125R	Fine Racing!
93	A			片平光浩	34	千葉	H-RS125R	鮎斗雲 & FINE & 五十歩百歩
94	B			桜井晋吾	23	神奈川	H-RS125R	テクニカルスポーツ関東
95	C			白石卓郎	32	千葉	H-RS125R	Fine Racing
96	A			栗原久泰	29	埼玉	H-RS125R	TEAM i-FACTORY
97	B			浦英樹	29	千葉	H-RS125R	Team 鮎斗雲
98	C			藤原優	35	東京	H-RS125R	チームSP
99	A			米井茂之	26	東京	H-RS125R	TOMEZO & ガレージ松井
100	B			小磯栄	28	茨城	H-RS125R	ナカノR & ウォーカーズ & モトα
101	C			高橋一夫	30	栃木	H-RS125R	オートテクニックスポーツ
102	A			吉沢隆	28	神奈川	H-RS125R	
103	B			内田満	28	東京	H-RS125R	ファイヤーガレージ & Sun AUDIO & TOMIKO!
104	C			山科真治	31	東京	H-RS125R	レオスファニーWINGオクムラ
105	A			森秀夫	29	東京	H-RS125R	Fine Racing
106	B			山根幸男	32	東京	H-RS125R	チームKAZUMAオートオーエ
107	C			北野宏	29	千葉	H-RS125R	Team 鮎斗雲
108	A			伊東忠孝	29	宮城	H-RS125R	レーシングサヤマ・ライドスポーツ
109	B			嘉陽哲久	15	東京	H-RS125R	テクニカルスポーツ
117	B			伊藤健一郎	23	宮城	H-RS125R	PJ1・JOG. R. S
141	C			石井大介	23	新潟	H-RS125R	TEAM KANEYASU
170	C			酒井雅章	25	茨城	H-RS125R	Team-RyOX & OX'S



ゼッケン	予選区分	予選順位	決勝順位	ライダー名	年齢	所属県	マシン	チーム名
01				John KOCINSKI	29	アメリカ	H-NSR500	Castrol HONDA
1				Michael DOOHAN	32	オーストラリア	H-NSR500	REPSOL HONDA
2				Alex CRIVILLE	27	スペイン	H-NSR500	REPSOL HONDA
5				阿部 典史	22	東京	Y-YZR500	YAMAHA TEAM RAINEY
7				岡田 忠之	30	茨城	H-NSR500	REPSOL HONDA
22				Kirk McCARTHY	28	オーストラリア	Y-YZR500	WCM-YAMAHA
26				加賀山 就臣	23	静岡	S-RGV1500	ラッキーストライク.スズキ
31				藤原 儀彦	31	静岡	Y-YZR500	Marlboro YAMAHA
41				芳賀 紀行	22	愛知	Y-YZR500	YAMAHA RACING TEAM
78				青木 拓磨	23	群馬	H-NSR500V	ウルトラマン・ホンダ

'97全日本ロードレース選手権ポイントテーブル

GP125 ポイントランキング<暫定>

GP250 ポイントランキング<暫定>

SB ポイントランキング<暫定>

ROUND	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	TOTAL
開催日	3/6	4/27	5/18	6/1	6/22	7/6	8/10	9/7	9/21	10/19	11/2	
会場	鈴鹿	SUGO	筑波	鈴鹿	FSC	SUGO	MINE	鈴鹿	筑波	TI	SUGO	
1	秋田 貴志	9	9	20	15	17	17	-	20	13	9	129
2	菊地 寛幸	15	15	17	-	11	-	20	1	20	20	119
3	小澤 敬明	-	17	11	-	20	20	17	5	11	11	112
4	高尾 和弘	20	-	-	20	10	11	6	11	2	10	90
5	大崎 誠之	13	10	15	-	15	10	15	10	1	-	89
6	酒井 大作	-	-	-	11	8	3	11	9	8	17	67
7	藤岡 祐三	7	-	-	4	-	15	9	15	-	13	63
8	仲城 英幸	-	20	-	3	-	-	4	17	15	-	59
9	稲毛田 潤	2	-	13	-	7	-	13	-	10	8	53
10	小野 真央	-	-	10	17	-	-	8	13	-	3	51

ROUND	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	TOTAL
開催日	3/6	4/27	5/18	6/1	6/22	7/6	8/10	9/7	9/21	10/19	11/2	
会場	鈴鹿	SUGO	筑波	鈴鹿	FSC	SUGO	MINE	鈴鹿	筑波	TI	SUGO	
1	加藤大治郎	-	20	20	20	20	15	15	20	20	20	170
2	芳賀 健輔	11	15	17	-	15	17	-	17	15	17	124
3	加賀山就臣	20	17	10	11	13	11	5	10	17	5	119
4	中野 真矢	17	9	-	17	17	20	20	-	-	15	115
5	松戸 直樹	15	-	15	-	11	10	17	13	11	13	105
6	玉田 誠	10	8	13	15	8	-	8	15	9	10	96
7	亀谷 長純	-	13	11	13	-	13	9	11	-	8	78
8	原田 伸也	9	11	9	9	10	-	-	9	6	9	72
9	小倉 直人	13	10	-	6	6	-	13	8	5	1	62
10	野田 弘樹	4	-	6	7	7	7	7	7	8	3	56

ROUND	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	TOTAL
開催日	3/6	4/27	5/18	6/1	6/22	7/6	8/10	9/7	9/21	10/19	11/2	
会場	鈴鹿	SUGO	筑波	鈴鹿	FSC	SUGO	MINE	鈴鹿	筑波	TI	SUGO	
1	芳賀 紀行	20	17	20	20	17	20	11	20	20	17	202
2	藤原 克昭	10	11	15	15	15	9	6	9	17	20	144
3	武田 雄一	17	20	17	17	20	17	1	-	9	9	136
4	吉川和多留	-	15	9	11	10	13	9	15	15	10	122
5	伊藤 真一	11	-	8	13	13	11	20	17	13	8	114
6	梁 明	15	13	13	8	8	-	15	13	11	-	109
7	芹沢太麻樹	8	10	10	5	9	10	13	6	8	-	79
8	武石 伸也	3	-	-	6	11	15	10	11	15	-	71
9	秋吉 弘亮	-	8	7	7	7	8	7	13	15	-	57
10	北川 圭一	13	-	-	-	-	-	-	10	11	11	55

TV on AIR 11月2日(日) 24:25~

■放送局：TBC

■ネット局：HBC-TBS-SBS-CBC-MBS-RSK-RCC-RKB

RFC特別会員だけの特典 (限定)

1997年全日本選手権シリーズ全戦共通バス発行 (観戦券+パドックバス)

特別会員には、1997年全日本ロードレース選手権シリーズ全戦においてのみ有効なスペシャルメンバーズカードを発行します。このカードを提示すれば、一部エリアを除いて観戦およびパドックエリアまでの入場が可能となります。
※ 指定席エリアには、入場できません

RFC一般会員だけの特典

全日本ロード各戦の観戦券・パドックバスの割引

1997年の全日本ロードレース選手権シリーズ全戦において、RFC会員カードを提示すると、観戦料金が当日料金の30%OFF、パドックバスが当日料金の10%OFFで割引購入できます。会員1名様に付き1枚のみ有効です。

RFC特別・一般会員共通の特典

- 1 鈴鹿日本GP・鈴鹿8耐・WSB(SUGO)の前売割引販売
- 2 ビットウォーク全戦参加が無料
※ビットウォークを開催するサーキットのみ
- 3 STEPS(レースプロモーション)の参加特典
- 4 交流イベント・体験走行・その他のイベントへの割引参加
- 5 宿泊観戦パック・アクセスサービスへの優待割引参加
- 6 パドッククラブのご利用
- 7 入会記念品進呈
- 8 大会来場記念品進呈 ※各大会先着50名様
- 9 会報「CREDENTIAL」の発行
- 10 レース情報提供サービス ※有料
- 11 各サーキットの付帯設備における割引等の特典

RFCイベントとは? その一例をご紹介します

●サーキット体験走行

レース終了後のサーキットをご自分のバイクで体験走行する貴重な機会!!

STEPS (写真左) / 鈴鹿サーキット懇親食会 (写真右)



FISCO体験走行 (写真左) / FISCOトークショー (写真右)

●トークショーイベント

ライダーのトークショーやアトラクションを実施。

●ライダーとの交流イベント

ライダーと身近にコミュニケーションできる交流イベントも開催。サーキットによって土曜日または日曜日の開催となります。

RFC JAPAN
MEMBERSHIP ROAD RACE OFFICIAL F.C.

●お問い合わせは...

RFC事務局
名古屋市西区則武新町4-4-19 〒451
☎.052-565-0501 FAX.052-565-0502

ロードレースファンクラブ

ビットウォークが無料!!
観戦券・体験走行・パドックバスが大幅割引!!
二日連続の観戦券・体験走行・パドックバス

全日本ロードレース選手権シリーズをファンが一体になって盛り上げながら、全日本ライダーとコミュニケーションしたり、サーキットライフも思いっきり楽しんでしまおうというのが、RFCロードレースファンクラブのコンセプト。MFJプロモーション実行委員会が運営主体となり、全日本ロード開催6サーキット、2輪メーカー4社、国際ライダーの統括団体であるRMA選手会、そしてライダーたちが一体となって盛り上げようとしているから、ロードレースをもっと楽しむための特典が満載!!

RFC入会方法

●1997RFC年会費 (入会金不要)

RFC一般会員 / 4,000円

RFC特別会員 / 30,000円 (限定あり)

★特別会員の入会受付は、限定数に達し次第終了いたします。ご了承ください。

●入会申込方法

住所、氏名、「RFC入会希望」とお書きいただき、RFC事務局にお送り下さい。折り返し入会申込書を送付いたします。電話・FAXでも受け付けます。

全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦にて設置されるRFCロードレースファンクラブのブースでも受付を行っています。サーキットで入会したい人は、ブースにて入会手続きをして下さい。この場合、入会したその場でカードの発行を行ないますので、入会と同時に特典が受けられます。

●申込・お問い合わせ先

RFC事務局 (アバンテック ジャパン, INC.)

名古屋市西区則武新町4-4-19

SG名古屋ビル5F 〒451

☎. 052-565-0501

FAX. 052-565-0502

NiftyServe. MAF01745

Internet. kentmild@po.ijinet.or.jp

**RFC入会受付
イベント参加受付
グランドスタンド
付近のRFCブース
にて実施中!!**

MFJ
MOTORCYCLE FEDERATION OF JAPAN



Roll Bahn

Roll Bahn-SYSTEM · Roll Bahn · Roll Bahn-S

「高性能は高い」という常識をくつがえす、3つのフルフェイス。

ヘルメットの流れが今、変わろうとしています。

ロールバーン・システム、ロールバーン、ロールバーンS。

街乗りで、ツーリングで、走りのスタイルで選べる新しいフルフェイスです。

ロールバーン・システムはフルフェイスとジェット、2つの個性を楽しめる2WAY型。

ロールバーンはこだわりの素材を、ロールバーンSは高性能を追求。

3タイプとも優れた品質、仕様を装備しながら、身近な価格を実現しています。

Roll Bahn-SYSTEM フルフェイスとジェットタイプ。2つの個性をひとつにした2WAYヘルメット。

便利さ広がるマウスガード開閉機構

可動式マウスガードを開くことで、メガネ使用者もそのまま着脱可能。また、ヘルメット装着のまま、喫煙や飲食ができます。
(※マウスガードはスネルM65合格レベルの完全性を確保しています。)



ジェットシールド(オプション)の装着による2WAYシステム

マウスガードとシールドを取りはずした後、ジェットシールド(オプション)を装着すれば、フルフェイス⇄ジェットの切替が可能です。

カンタン操作のワンタッチ開閉ロック

マウスガードの開閉ロックは、ワンタッチ式。休憩の際、グローブをつけたままでもラクに操作ができます。

確実に風を誘導するダイレクトベンチレーションシステム

上下のインテークから取り入れた空気を、内装に設けた独自の流路を通じ、ヘルメット内に効果的に誘導。涼しさを招き入れ、シールドの曇りも抑えます。

ラクラク操作のワンタッチバックル

ヘルメットの着脱の際は、グローブをつけたまま、あごひものボタンのワンタッチでOK。

リラックスフルフェイス。

Roll Bahn-SYSTEM



ホワイト ブラック スターブラック シェットシールド(オプション)

- 機種名/Roll Bahn-SYSTEM ●規格/JIS B種
- サイズ/M/L/XL/3L



コンペティションシルバー

¥19,800

FRPにこだわった高品位シェル。

Roll Bahn



ホワイト スターブラック コンペティション シルバー ティーペキャンディ レッド

- 機種名/Roll Bahn ●材質/FRP ●規格/JIS C種
- サイズ/S/M/L/XL/3L

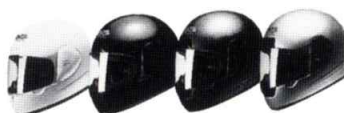


ブラック

¥16,800

快適な走りのための先進機能が充実。

Roll Bahn-S



ホワイト ブラック スターブラック コンペティション シルバー

- 機種名/Roll Bahn-S ●規格/JIS C種
- サイズ/M/L/XL



キャンディレッド

¥14,800

- 上記商品は、全国のヤマハ二輪取扱店または有名用品店で求めください。
- 商品のお問い合わせはヤマハ発動機株式会社部品事業部 MC用品営業グループ TEL 0538(37)4420までお願いいたします。
- 上記価格はすべてメーカー希望小売価格(税別)です。
- 商品の仕様および価格は予告なく変更することがあります。また、品切れの際にはご容赦ください。

YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社
〒438 静岡県磐田市新貝2500

INFORMATIONS

思いっきり楽しもう!レースの合間は
レクリエーション広場にレッツゴー!!

レクリエーション広場

決勝当日は、NISSEKI、H・A・R・T、Y.E.S.S.、
JAJA-UMACLUBの各メーカーユーザーズクラブが
SPスタンド裏のレクリエーション広場に集合して、
盛り沢山のイベントを開催。
レースの緊張感だけでなく、
アトラクションいっぱいのPRブースも忘れずに!!

NISSEKI RACINGSPEC PRO 2T・4T



- NISSEKIグッズがもれなくもらえるゲームアトラクション
- NISSEKIオイルモニタリング
人数限定のモニター募集

H・A・R・T

Honda Active Riders Terminal



- H・A・R・Tメンバーへのウェルカムプレゼント
- H・A・R・Tレディとのポラロイド記念撮影会
- H・A・R・T恒例
バイクカードゲーム
H・A・R・Tデ! ダイスキドキレース
- ホンダライダーによるトークライブ

JAJA SUZUKI JAJA-UMACLUB INTERNATIONAL



- スズキニューモデル展示
- スズキオリジナルグッズの販売
- JAJAゲーム大会
- 97スズキJAJAイメージガール
酒井清美登場!!
- スズキワークスライダー登場

KAWASAKI RIDERS' CLUB KAZE



- Kawasakiグッズ争奪!
KAZEギャルと遊ぼう、
ジャンケン大会。
- KAZEギャル撮影会。
- お疲れ様!
塚本選手引退セレモニー
(GP250終了後)

Y.E.S.S. YAMAHA EARTHLY SPORTS SYSTEM



- ロードレースの見どころが
ばっちりわかるゲストライダー
によるSUGO攻略法
- ジャンケン大会
- BINGO大会

各イベントは天候その他により変更になる場合がございます。

'98 SUGO BIGRACE CALENDAR

4月

26日 全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦

5月

10日 全日本オールスタージムカーナ
24日 全日本ツーリングカー選手権シリーズ第3、4戦

6月

7日 全日本モトクロス選手権シリーズ第5戦

7月

12日 全日本カートレース選手権第4戦

8月

2日 フォーミュラ・ニッポン第5戦

9月

6日 全日本モトクロス選手権シリーズ第8戦

10月

4日 スーパーバイク世界選手権レース
18日 JAPAN KART-GP
18日 全日本トライアルGP
25日 全日本GT選手権レース最終戦

11月

1日 全日本ロードレース選手権シリーズ最終戦MFJ GP
15日 スーパーN1耐久シリーズ第7戦

※予定が変更される場合があります。ご了承ください。

HISTORY OF MFJ GP



昨年、非力なVツインを優勝に導いた岡田忠之。アレックス・クリビエが2位に、青木宣篤が3位に入賞した



エキシビジョンレースとはいえ、岡田忠之の500初優勝はこのレースだった。そして、今年、岡田はV4NSRを手に入れ、グランプリ500でも勝つ

チャンピオン拓磨に挑んだ紀行。両者接触転倒の残念なリタイヤに終わったが、拓磨はグランプリで、紀行は全日本で、今シーズン大活躍をみせた



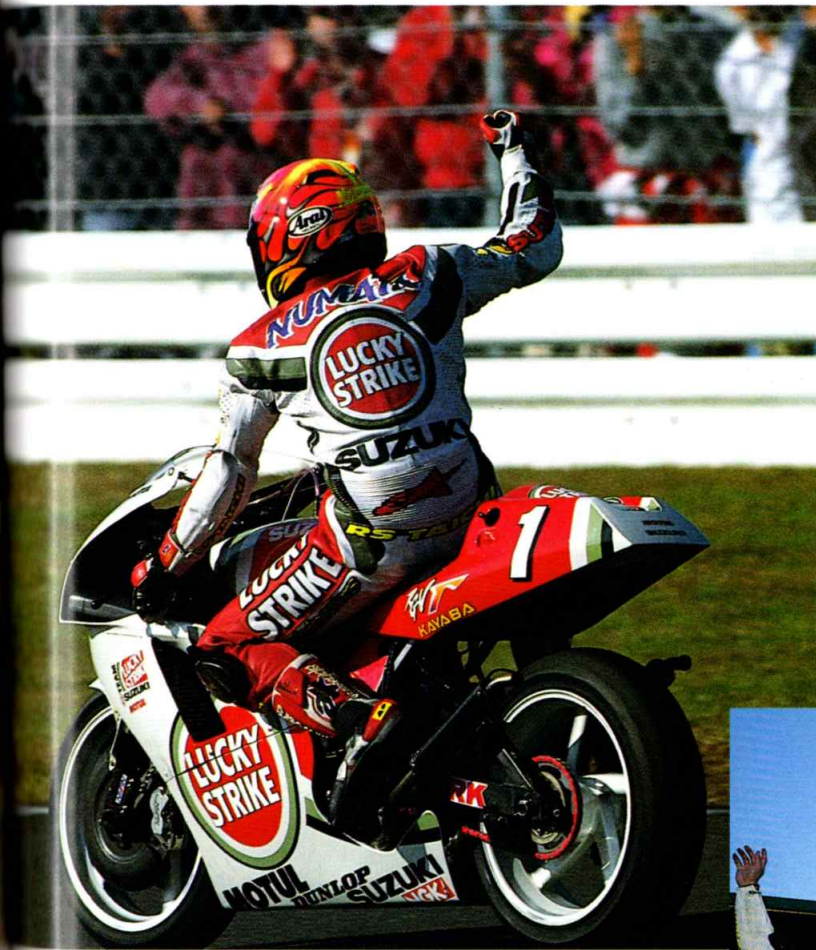
全日本ロードレース選手権の最終戦は、MFJグランプリと呼ばれる。このレースで入賞したライダーの獲得するポイントには3ポイントずつのボーナスがつく。もちろん、それだけではなく、最終戦としてシリーズを締めくくる意味でも重要な一戦となっている。

MFJグランプリが始まったのは、87年から。それ以前の全日本の最終戦は、日本グランプリという名前で呼ばれていたが、この年の春に鈴鹿で世界選手権である日本グランプリが始まったため、全日本の最終戦はMFJグランプリと呼ばれるようになった。

MFJグランプリは、87年から94年までは筑波を舞台に開催され、95年よりSUGOが舞台となっている。SUGOに舞台が移ると同時に、GP500クラスのエキシビジョンレースとして、TBCビッグロードレースが開催されるようになった。

95年は年初の阪神大震災の影響により、全日本のスケジュールに変更があったため、実質的な最終戦はSUGOとはならなかった（開幕戦の鈴鹿が震災の影響で延期になり、MFJグランプリの次のレースとして開催された）。しかし、SUGOではグランプリの冠のついたレースにふさわしいレースが展開された。

この年のスーパーバイククラスと250クラスでチャンピオン争いをしていた、青木拓



チェッカーを受けた後、力強いガッツポーズでウイニングランに臨んだ沼田憲保。これで2年連続チャンピオンを決め、世界へと旅立った

MFJグランプリの恒例となった3クラスのチャンピオン表彰式。左から沼田、拓磨、東。3人はいずれも97年より世界グランプリに参戦した

LAST DOGFIGHT! MFJグランプリに 新たな伝説が刻まれる

磨と沼田憲保が、MFJグランプリの勝利により、タイトル争いに王手をかけ、実質上の最終戦である鈴鹿で念願の初チャンピオンに輝いたのだ。

10年間の歴史を振り返れば、全日本の最終戦であるMFJグランプリはさまざまなドラマを生み出してきた。もちろん、それは最終戦ならではのチャンピオン決定という、ドラマティックなエンディングが主役であることは間違いない。

しかし、ちょうど全日本の最終戦がMFJグランプリと呼ばれるようになって以降、日本人GPライダーが続々と誕生したことも、新たなドラマを生み出すこととなった。シーズンの最終戦と

いうこともあって、GPから帰ってきたライダーたちが参戦し、全日本勢との戦いによる名勝負も数多く展開されたのだ。

昨年は500クラスで岡田忠之が優勝し、青木宣篤が3位に入賞した。活躍が期待されていた伊藤真一と阿部典史は、実力を出し切る前に転倒に泣いた。250クラスでは沼田憲保が見事なレース運びで2連覇を達成。スーパーバイククラスでは、チャンピオンを獲得して臨んだ青木拓磨と、『ストップ・ザ・拓磨』の急先鋒である芳賀紀行が激しいトップ争いを展開した末に、3コーナーの進入で接触転倒するという波らんドラマを作った。スーパーバイク



全日本に戻ってきた仲城英幸は、開幕戦と最終戦で勝利した。今シーズンも全日本のトップクラスで戦っている



で勝ったのは、ワールドスーパーバイク帰りの吉川和多留だった。125クラスではこの年、GPから全日本に舞台を移して戦った仲城英幸が、優勝を収めている。

今年のMFJ-GPも、500クラスの開催、日本人GPライダーの参戦と話題にはこと欠かない。タイトル争いに決着が付いていないのは、125クラスのみ。しかし、すべてのエントラントにとっては、泣いても笑っても今シーズン最後のレース。

さて、今年はどうなドラマが生まれるのだろうか？ ファイナルのカウントダウンはもう始まっている。



COURSE

観戦ガイド

ベストポイントで観戦に臨む

1 シケインスタンド

低速コーナーが組み合わされているため、ブロックライン、タイムを出すライン、パッシングラインなど、様々な走行ラインがある。それゆえ、最終ラップのここで、最後の最後に緊張感あふれるドラマが展開されてきた。またシケイン入り口は、SPアウトコーナーを立ち上がり、110Rという高速コーナリングをし、マシンを完全に起こせない状態でブレーキングしながら、このシケインへのアプローチとなる。ここも非常に繊細なブレーキングが要求されるポイントだ。

2 SPスタンド

レインボーコーナーを立ち上がると、下りながらのバックストレッチに入る。ここが、コース中最もスピードの出るポイントだ。しかもその先が、40Rで回りこんでいる馬の背コーナーへと続いている。下りながらのフルブレーキングとなるため、フロントタイヤのコントロールが非常に難しくなる。それだけに、ブレーキング競争によるパッシングポイントとなる。

3 グランドスタンド

ここからは、日本国内のサーキットでは珍しい10%という急な登り勾配を全力で駆け上がってくるマシンを見ることが出来る。登り勾配を一気に駆け上がり、スリップストリームから抜け出し、1コーナーへのアプローチで前のマシンを抜くというパッシングポイントでもある。今回もパッシングシーンが見られるか。

4 NISSEKIコーナースタンド

このスタンドは、1コーナーへのアプローチから2コーナー立ち上がり、そしてハイポイントコーナーまでを見ることが出来る。1コーナーは30Rの右ターンで、ほぼ直角に曲っている。さらに次の2コーナーがまた40Rのほぼ90度ターンなので、1コーナーを立ち上がったからといって、すぐにアクセルを全開にするわけにはいかない。2コーナーの走行ラインを考えながら、1コーナーのアプローチをしなければならないのだ。そのあたりの走りをぜひ、チェックしたい。

5 イベント広場

H・A・R・T、JAJAUMA CLUB、KAZE、Y.E.S.S.、NISSEKIの各メーカーのPRブースが、イベント広場に集結！ユーザーズクラブのアトラクション・ゲーム大会など楽しいイベントがぞんこもり！レース観戦を2倍、3倍に楽しむなら、ぜひPRブースへ。



'97SUGO
Race Queen



小嶋 由美子 (22歳)
YUMIKO OJIMA

■身長：168cm
■B84-W55-H86
■趣味：読書、スキー
■出身地：宮城県



船渡 幸恵 (23歳)
SACHIE FUNATO

■身長：162cm
■B85-W60-H84
■趣味：ピアノ
■出身地：埼玉県

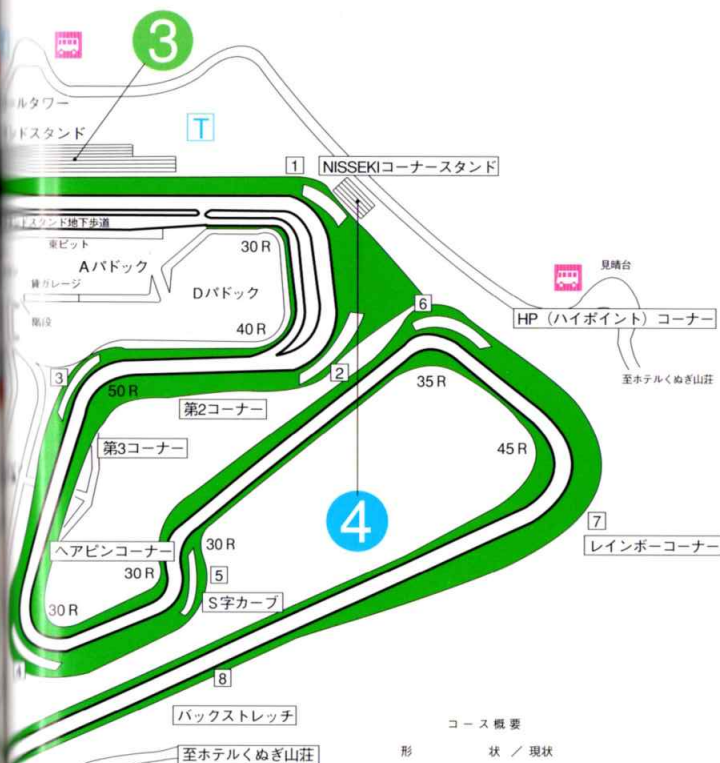


二瓶 有香 (21歳)
YUKA NIHEI

■身長：170cm
■B88-W60-H89
■趣味：スノーボード
■出身地：宮城県

GUIDE

の国際的な規格のレースを開催する、スポーツランドSUGO。コース全長17.5m、18のコーナと2つのストレートで構成される。地形としては、高低差が69.83mもあり、しかもその中にコーナーがレイアウトされているため、非常に繊細なマシンコントロールが要求されるダイナミックかつテクニカルなコースだ。



- T** = トイレ
- P** = 駐車場
- バス** = 無料バス停留所
- 食** = 食事

コース概要
 形状 / 現状
 全長 / 3,737.50m
 (3,704.256m / シケイン部を除く)
 最大直線長 / 704.50m
 最小曲線半径 / 20m
 走行路幅員 / 10.0~12.5m
 最大縦断勾配 / 10.0%
 最大横断勾配 / 10.0%
 最大標高差 / 69.83m

1997 SUGO RACE CALENDAR

開催日	大会名
-----	-----

RACING COURSE 2輪

11/1(土)~2(日)	全日本ロードレース選手権シリーズ最終戦MFJグランプリ
--------------	-----------------------------

KART COURSE

11/16(日)	地方カート東北地区最終戦・SUGO第7戦
11/23(日)	SUGOジムカーナ POTENZA CUP
12/14(日)	'97SUGOウインター耐久カートレース

ホームページできました。

URL:<http://www.sportsland-sugo.co.jp/>
 E-mail:info@sportsland-sugo.co.jp



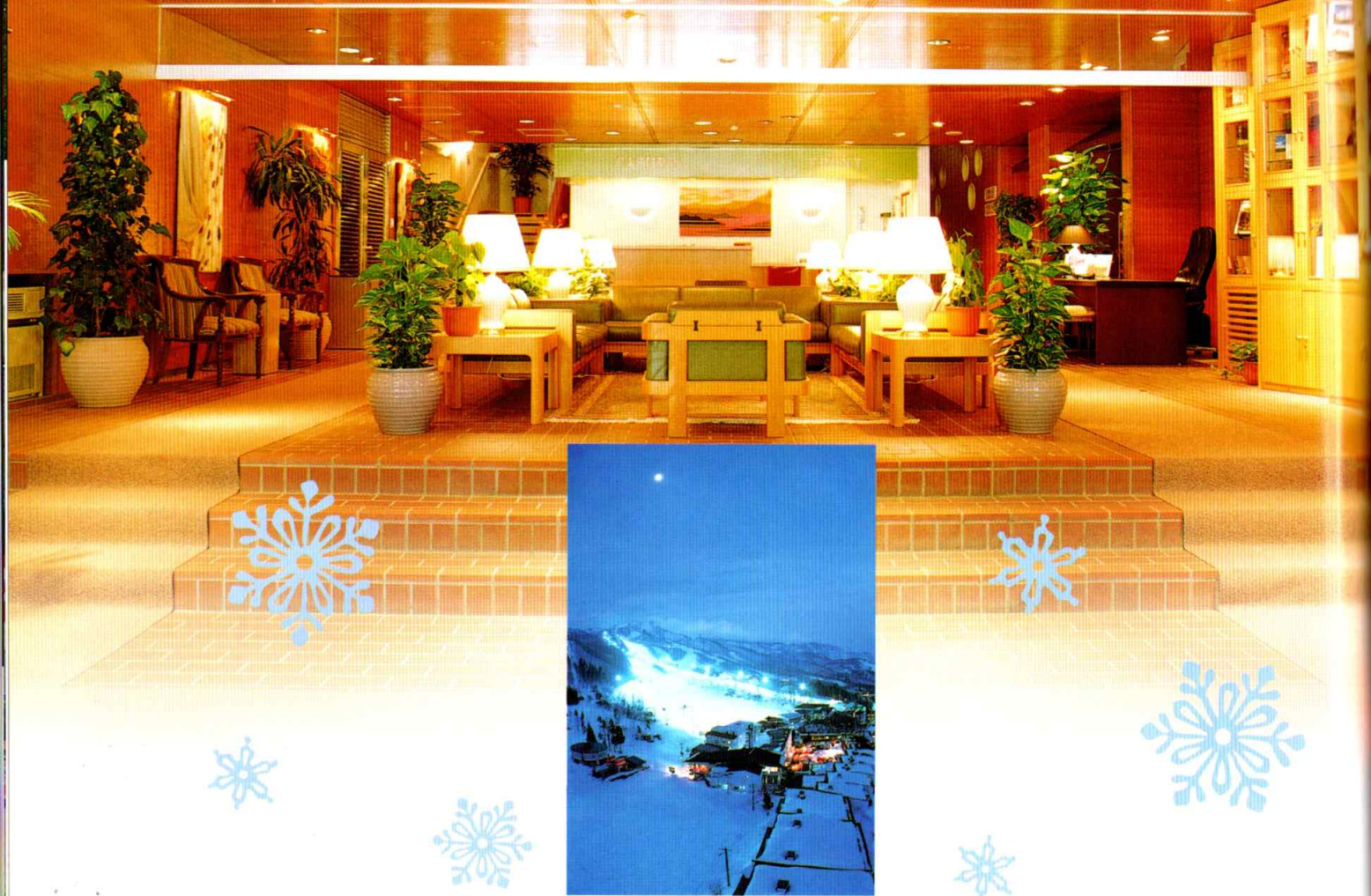
宮崎 聖子 (21歳)
 SEIKO MIYAZAKI

- 身長: 165cm
- B82-W61-H88
- 趣味: 映画・音楽
- 出身地: 宮城県



この冬、蔵王がますますたのしい!

Snow Season in ZAO



蔵王ロイヤルホテルはすぐ目の前がゲレンデ、心のおもむくままにスキーライフをお楽しみいただいた後は、ヨーロッパスタイルをとりいれて新しくなったロビーが、皆様をあたたくお迎えます。また、客室はお客様のお好みに応じて3タイプをご用意、メインダイニング・バンケットホールもおしゃれな雰囲気統一され、カラオケ・大浴場など充実した設備と共に皆様のリゾートライフを演出します。



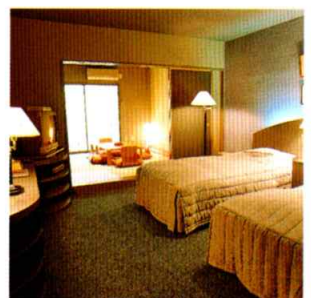
●バンケットホール



●メインダイニング



●メゾネットスイートタイプ



●デラックスタイプ



ZAO ROYAL HOTEL

蔵王ロイヤルホテル

〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉760-1

E-mail ZAOROYAL@mail.dewa.or.jp

●お問い合わせ・ご予約は

TEL 0236-94-9361

FAX 0236-94-9365

●客室/プライベート重視のリゾートホテルタイプ 全室バス・トイレ付・2フロア型メゾネットタイプ46室
和室付デラックスタイプ20室・リビング付スタンダードタイプ16室●施設/メインダイニング・バンケットホール
バー・カラオケルーム・檜風呂・売店・レンタルスキー・ロッカールーム・宅配便受付カウンター●交通/電車
山形新幹線山形駅下車バス45分 車...山形自動車道山形蔵王ICより30分



非日常的 スペック

ビストラレーシング2&4、
誕生。

レーシングオイルに求められるもの。それは常に、非日常的な高性能である。なぜならば、現代のレーシングマシンが求めているオイルとは、いわゆる、焼き付きなどからエンジンを守るという、オイル本来の役割は至極当然のことであり、それ以上の、このオイルを使えばどのくらい有利になるのかという、チューニングパーツと同等の結果を要求されるからである。

1000分の1秒を攻められること、それこそが、レーシングオイルという名をもつ資格であるとBPは考えています。

非日常的要求への解答、ビストラレーシングシリーズ。誕生。



ビストラ レーシング4

- SAE 10W-50
- API SJ
- 100%化学合成油



ビストラ レーシング2

- 100%化学合成油

Vistra

Born to Win



もうひとつ、インを攻めたくなる。

High Sport Radial TX15-25/RACE

このハイスポーツラジアルには、ミシュランが世界GPで培った、最先端テクノロジーが投入されている。頂点を狙うプロダクションレーサーへ、TX15 RACE/TX25 RACE(公道走行可)。走りを極めるレーサーレプリカへ、TX15/TX25

◎ハイグリップコンパウンド採用。極限まで堪能できるブレーキング&コーナリング。◎マシンの性能を最大限に引き出すため、グラム単位の軽量化を図りバネ下重量低減。◎狙ったとおりのラインをトレースできる、ニュートラルなハンドリング特性。◎非常にスムーズな過渡特性。よりレーシーなコーナリングを実現。◎ハイグリップタイヤでありながら、雨に強いオリジナルパターン

Born to Run.



Front Rear
TX15/TX15 RACE TX25/TX25 RACE



MICHELIN



ミシュランは、'98ワールドカップフランス入車の
オフィシャルタイヤサプライヤーです。


 **NAGATANIEN**

SINCE **1952**



伝統的
フリーストワード



 味ひとすじ
永右園



楽しみ方のオーリンズ
フルアジャスタブル・ツインショックと共に

モーターサイクルにはスペシャリストと呼ばれる人々があります。土浦市の「モーターサイクル レインボー」、オーナーは天田 栄氏と天田昭治氏。14年前から始めたお店で扱うモーターサイクルは、共に正規代理店としてのBMWとハーレーダビッドソンのみ。ハーレーでレースを始めたのは1994年から。現在も弟の昭治さん(37歳)が活躍中です。参戦はテスト・オブ・フリーランス、グランドスラム、トランスエコー、ヒュージ・アンド・タイニー、B.O.T.T.などの成熟したモーターサイクルスポーツが定着している欧米に見られる家族ぐるみのレースエントラント、オーガナイザー、そして観客の皆さんとが一体となった、これらの人達のモーターサイクル観、そして人生観すらが感じられる「楽しみのサンデーレース」。「モーターサイクル レインボー」のレース用ハーレーにはオーリンズフルアジャスタブル・ツインショック「天田スペシャル」が装着されているのです。天田兄弟はオーリンズショックのテクニカルメリットとして、まずバリエーションの豊富さを挙げ、さらにフルアジャスタブル・ツインショックは減衰力のキャパシティが広く、特にいろいろな車種や仕様・用途に対応できる点を指摘しています。この様に、天田兄弟の手によるハーレーはちょっと違います。今年9月に行われたヒュージ・アンド・タイニーではハーレー883で見事優勝。念願のデイトナ行きのチケットを手に入れました。「モーターサイクル レインボー」、虹は霞ヶ浦からフロリダのデイトナへ夢はさらに加速します。それはオーリンズと共に。



●OHLINS DOCUMENTS
96年6月16日筑波で行われた「1996年9月16日筑波で行われた」天田昭治氏が優勝。この優勝を記念して、今年秋の10月19・20日にデイトナで行われるCS(サンビエロ)・カップシリーズの最終戦に出走する権利を獲得した。海外のレースに出るのは初めて。ライダーがメカニックも兼ねると言うハンデを背負いながらもヤル気満々。その魅力を感じている「モーターサイクル レインボー」の自慢のひとつが、ハーレーとオーリンズの絶妙なセティングを作ること。ライダーに合わせた思い通りのセティングを出すには定評がある。天田兄弟は既にデイトナに発送されている。現地での活躍を期待したい。

フルアジャスタブル・ツインショック
¥118,000

●ガス室とオイルを隔離するフリーピストンにより、キャピテーション(泡立ち)、エアレーション(空気吹込み)を防ぐと共に高い冷却性能を誇る。●圧側減衰力調節機構(4段階)●伸側減衰力調節機構(20段階)●全長無段階調節機構(+10mm)●油圧スプリングプリロードアジャスター(-10mm行程)

適合車種：ゼファー1100/ZI、ゼファー400/Z400、ZRX400、CB1000SF(BIGI)、CB900/1100F、CB400SF、XR1200、V-MAX、XR400、GSX1100Sカタナ、GSX400インパルス

作業工賃価格

●オーバーホール/仕様変更
リアショック ¥24,000
スプリング交換 ¥2,000

O/H時無料

備考：スプリング代は別途
※ツインショックのそれぞれの工賃は、1台分(2本)の料金です。



オーリンズのお求めは、この看板のオーリンズプロショップで。

●大手の価格に品質以上の取り回しサービス。●価格以上の仕入れの確保。●アフターサービス。●お客様の要望に応じたカスタマイズ。●お客様の要望に応じたカスタマイズ。●お客様の要望に応じたカスタマイズ。

商品に関するお問い合わせ、ご注文は
お客様フリーダイヤル
0120-81-1113

オーリンズに関するお問い合わせは、

ラボ・カロツツェリア
〒960-1511 青森県八戸市 1-8-23 TEL 048-961-1801 FAX 048-961-1802

流れる空気を集めて大量に取り入れる
マルチエアスクープ

約20% **空力性**を向上(当社比)

シェル形状の全面的な見直しを行い、従来品に比べCL値(ヘルメットの浮き上がりを抑える力)を約20%向上。高速走行時のヘルメットの浮き上りを軽減させ、ライダーの首への負担を少なくしました。

規格は **スネルM95**をクリア

内部に**空気のパイパス**
ハイパーデュアルライナー

レーザー使用の**スペシャルアイテム**
プレスガード

排気効率アップ
ポーテックスベンチレーション

乱気流を防ぐ
サイトレーション

瞬間シールド脱着
Q.R.S.B.システム

内装脱着
Q.R.I.P.システム

息を逃がす
サイドブローシステム

風の巻き込み防止
チンカーテン

シールドの曇りを防ぐ
ロアエアインターク

機能と軽さの
頂点へ。
SHOEIの技術を結集したフルフェイスの最高峰、「X-8 SP II」登場。



流れる空気を
集めて **大量**に取り入れる

アッパーエアインタークは、エア導入口を大型化して吸入孔を4箇所にしたマルチエアスクープを採用しました。レーザーなどカウリング装着車に乗った場合でも、空気の吸入がさまたげられないようヘルメット上部に設置。後に流れよとする空気を集めて大量に効率良く取り入れます。



息を逃がす

ヘルメット内の口元にこもった呼吸による熱気や湿気を、走行風の負圧効果によって速やかに排出するサイドブローシステム。輻体を凹ませ精悍なムードを演出するとともに、剛性もアップしました。



排気 効率アップ

当社従来モデルの180%の負圧効果(空気を吸い出す力)を実現したポーテックスベンチレーションシステム。ライダーへの影響を最小限に抑えながら最大限の効果を発揮する、高効率排気システムです。



内部に**空気のパイパス**

ヘルメット内部に、その間に空気の通るエアルト(パイパス)を作ったSHOEI独自のデュアルライナーをさらに進化させ、マルチエアスクープに対応したハイパーデュアルライナーを開発。走行風をより効果的に活用し、ヘルメット内の湿気・熱気を速やかに取り除きます。



洗濯可能

内装のすべてが取り外せるQ.R.I.P.(クイックリリースインナーパッド)システム採用。誰でも手軽に脱着でき、洗濯できます。しかもチークパッド(オプション)の交換によりサイズの微調整もできます。

徹底的な軽量化

シェルの形状・素材はもちろん、パーツひとつひとつを軽量化。さらに生産工程での重量チェックなど徹底的に軽さを追求し、シェル重量も約10%ダウン(当社比)。フルバックでライトウエイト、ヘルメットのひとつの理想をSHOEIの技術が実現しました。



47,000円



ホワイト



ウォームグレーメタリック



ブラック

●規格:スネルM95規格/JIS規格C種(MFJ公認) ●カラー:ホワイト、ウォームグレーメタリック、ブラック ●サイズ:S(55-56cm)、M(57-58cm)、L(59-60cm)、XL(61-62cm) ●構造:新素材(超高強度・高弾性率繊維) & ファイバーグラスH.L.構造 ●付属:SP II プレスガードおよびSP II チンカーテン 【オプションパーツ】 ●標準装備 CX-1シールド:ソフトスモーク標準装備、クリアー、スモーク、アンバー各3,800円 ●オプション CF-1シールド(2次曲面、ティアオフフィルム対応):ソフトスモーク、ライトスモーク各4,500円 ●ティアオフフィルム:5枚セット1,000円 ●QRベースセット:800円 ●プリセットレバー:200円 ●X-8SP II センターパッド:2,500円 ●チークパッド(X-8V、ZRV共用):4,500円 ●チンストラップカバー(X-8V、ZRV共用):800円 ●SP II プレスガード:1,500円 ●SP II チンカーテン:1,000円

BRIDGESTONE

グリップ・イン・ザ・サーキット。

全国のスポーツプロダクション・レースを駆け抜ける
勝つためのサーキット・グリップ、BT-90 RADIAL。
そのグリップ性能は、レーサーの闘争心に応える。

BATTLEAX



BT-90 RADIAL

王者ドゥーハン、
昨年の覇者、岡田、青木兄弟。
今年もあの男達がモンスターをしたがえ、
SUGOに帰ってくる。

ときすまされた肉体が、マシンが、
数センチのバトルを刻む。
1/1000秒のドラマが今年も

WORLD BIG STARS in SUGO

'97 TBC BIG ROAD RACE

1997.11.2 sun 深夜0:25 ON AIR!

TBC-HBC-TBS-SBS-CBC-MBS-RSK-RCC-RKB

全国9局
ネット

未成年者の喫煙は禁じられています
あなたの健康を損なうおそれがありますので
吸いすぎに注意しましょう



ボックス

タバコ11mg/ニコチン0.8mg

スーパーマイルド

タバコ9.6mg/ニコチン0.5mg

AN AMERICAN ORIGINAL.

LUCKY STRIKE